

# SyAM System Area Manager (V3.x)

ユーザー マニュアル

Sep 2008



**SyAM Software, Inc.**

ネットツール株式会社

© 2006 SyAM Software, Inc. / NETTOOL,INC.

本[ソフトウェア使用許諾契約書]に関するお問い合わせ先  
ネットツール株式会社  
〒194-0023 東京都町田市旭町2-15-23 新日本ビル  
TEL:(0427) 26 - 2883 FAX: (0427) 26 - 5303  
Email: [info@nettool.co.jp](mailto:info@nettool.co.jp)

本ソフトウェアに含まれる全て（コンピュータ・プログラム、事例データ、それらに関するマニュアル等）の著作権は、米国法人 SyAM Software, Inc. ネットツール株式会社に帰属します。  
System Area Manager は米国 SyAM Software, Inc.、Windows、Excel は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。  
その他の製品名および社名などは各社の商標または登録商標です。

Part Number 020106B-JPN-S

# 目次

イントロダクション.....	6
System Area Manager ソフトウェア モジュール.....	7
コンパチビリティ.....	7
配置オプション.....	8
Chapter 1: インストールとコンフィグレーション.....	9
インストール方法 - Windows.....	9
ファイアーウォール(FireWall ) セキュリティー.....	10
System Area Manager アンインストール (Windows).....	12
System Area Manager アンインストール (Linux).....	12
Chapter 2: ログイン.....	13
System Area Manager Web サーバーへのブラウジング.....	14
セッションの終了.....	14
Chapter 3: System Area Manager ユーザー インターフェース.....	16
ユーザー インターフェース.....	17
インターフェース レイアウト.....	17
ヘルスカラー.....	18
アイコン.....	19
マネージメントツリーへシステムを追加.....	20
マネージメントツリーのためのグルーピング、ソーティング.....	22
System Area Manager マネージメント コンソール ツリーの拡張.....	23
マネージメント ツリーのグルーピング、ソーティング によるフィルタリング オプション.....	25
Chapter 4: ライセンス マネージメント.....	26
ライセンス マネージメント.....	27
Chapter 5: リモート マネージメント.....	28
リモート マネージメント.....	29
システム ステータス.....	29
Wake on LAN (WOL).....	30
リモート コンソール.....	31
デフォルト パスワードの変更.....	33
リモート コンソール セッションの終了.....	34
IPMI イベント ログ.....	35
IPMI イベントログの抽出.....	36
IPMI Over LAN.....	37
AMT (Intel Active Management Technology).....	38
Chapter 6: セントラル イベント ロギング.....	42
セントラル イベント ロギング.....	43
Chapter 7: セントラル レポートティング.....	45
レポートティング.....	46
Chapter 8: システム構成とセントラル アラート.....	49
システム アラート マトリクス - システム レベル アラート(警告).....	50
モニターされるセンサータイプ.....	51
物理センサー.....	51
論理センサー.....	51
通知セッティング.....	51
システム アラート マトリクスからセンサー値を除去.....	53
セントラル アラート マトリクス.....	54
モニターされるイベントタイプ.....	54
System Area Manager をエンタープライズ フレームワークへインテグレーション.....	55
Chapter 9: システム情報へのアクセス.....	56
システム タブ.....	57
メモリ エラーのモニタリング.....	57
パワー マネージメント タブ.....	58
タイムアウト セッティング.....	59
バッテリー.....	59
スケジュール セッティング.....	59
ハードウェア タブ.....	60
シャシー インترلージョン のリセット.....	60
ネットワーク タブ.....	60
ストレージ タブ.....	61
RAID マネージメント.....	61

SMART によるドライブの事前故障予測.....	61
RAID マネージメント.....	62
ソフトウェア タブ.....	65
エンド プロセス - スタート/ストップ サービス .....	65
Chapter 10: プラットフォーム イベント トラップ サポート の構成.....	67
プラットフォーム イベント トラップ.....	68
System Area Manager がプラットフォーム イベント トラップを 受け取るためのコンフィグレーション.....	69
Chapter 11: コンタクト と用語等の解説.....	71
コンタクト情報.....	72
用語等の解説.....	72

## 挿入図 目次

Figure 1: System Area Manager プログラム メニュー.....	11
Figure 2: System Area Manager プログラム ユティリティメニュー.....	11
Figure 3: System Area Manager – Linux のアンインストール.....	12
Figure 4: ログイン スクリーン.....	14
Figure 5: ログアウト成功.....	15
Figure 6: System Area Manager マネジャー ユーザー インターフェース レイアウト.....	17
Figure 7: ヘッダーバー.....	17
Figure 8: System Area Manager ヘルス ステータス カラー.....	18
Figure 9: IP アドレスレンジを使用した管理対象システムの追加.....	20
Figure 10: マネージメントツリーからシステムをリムーブ.....	21
Figure 11: マネージメントツリーのソーティング、グルーピング.....	22
Figure 12: マネージメントツリー – グループとともに各システムを拡張表示.....	23
Figure 13: マネージメントツリー – グループ、システム、モジュールに拡張された表示.....	23
Figure 14: ライセンス マネージメント スクリーン – 評価期限が表示されています。.....	27
Figure 15: リモートマネージメント オプション.....	29
Figure 16: システム ステータスと Wake on LAN 機能.....	29
Figure 17: リモート コンソール の実行.....	31
Figure 18: リモート コンソール ログイン.....	32
Figure 19: リモート コンソール – リモート システム の管理.....	32
Figure 20: リモート コンソール – リモート コンソール セッティングの変更.....	33
Figure 21: リモート コンソール – リモート コンソール サービスのスタート.....	33
Figure 22: リモート コンソール – 切断.....	34
Figure 23: AMT ログイン タブ.....	38
Figure 24: AMT コンソールの呼び出し.....	38
Figure 25: AMT 接続の確立.....	38
Figure 26: AMT リモートコントロール.....	39
Figure 27: Serial Over LAN (BIOS の再構成中のサンプル).....	39
Figure 28: IDE-R (CD/DVD からのブート).....	40
Figure 29: IDE-R (CD-ROM からのリモートブートを使用する場合).....	40
Figure 30: AMT システム ディフェンス (AMT 接続を確立).....	40
Figure 31: ダウンロード SyAM ポリシー.....	41
Figure 32: AMT システム ディフェンス ポリシー.....	41
Figure 33: イベントログ.....	43
Figure 34: セントラル マネージメント レポート.....	46
Figure 35: サマリ、詳細レポート.....	48
Figure 36: システム アラート マトリクス.....	50
Figure 37: セッティング カテゴリ 通知のレベル.....	52
Figure 38: 通知情報の入力.....	53
Figure 39: セントラル アラート マトリクス.....	54
Figure 40: システム タブ.....	57
Figure 41: システムタブ 続き.....	57
Figure 42: パワー マネージメント タブ.....	58
Figure 43: ハードウェア タブ.....	60
Figure 44: ネットワーク タブ.....	60
Figure 45: ストレージ タブ.....	61
Figure 46: ソフトウェア タブ.....	65
Figure 47: プロセスの終了.....	65
Figure 48: プロセス終了のい確認画面.....	65
Figure 49: サービスのスタート.....	65
Figure 50: サービス スタートの確認画面.....	66
Figure 51: PET Email アラートのサンプル.....	68
Figure 52: イベントログ内の PET 情報.....	68

## イントロダクション

System Area Manager は、単体の PC やサーバーを管理する小規模管理から、数百台のマシンを中央から一括管理するため、大規模なシステム管理まで実現可能です。System Area Manager は、サーバーマネージャー（サーバー、クライアントをサポート）とデスクトップ マネージャー（デスクトップ PC のみを管理）の 2 種類があります。システムのモニタリングにより、不具合を事前に余地、システム構成の変更等の警告、リモート マネージメント、システムのアセットレポート、等等、の有効な機能で IT システムに多くのメリットをもたらします。製品はダイナミックにハードウェアとソフトウェアの操作環境と、全ての物理的なリソース環境を感知し、これを管理します。そしてもしもシステム上の各モジュールが正常値を超えている場合、これを警告します。

System Area Manager はライセンスを追加することにより、マルチライセンス版同様、1 つの管理コンソールから最大で 500 台のマシンを管理することもできます。

## System Area Manager ソフトウェア モジュール

System Area Manager ソフトウェアには 2 つの製品があります。;

- **System Area Manager サーバー マネジャー**  
本ソフトウェアはサーバー、デスクトップ、ノートブック全てを管理する機能を提供し、RAID 管理、PET、IPMI Over LAN 等もサポートしています。  
(内容の詳細は、以降をご参照下さい。)
- **System Area Manager デスクトップ マネジャー**  
本ソフトウェアは、デスクトップ、ノートブックを管理する機能を提供します。

これらの製品は、インテル IA32(x86) IBMAT 互換機/ EM64T(x64)/Itanium2(IA64) アーキテクチャで以下に記載されたオペレーティング システムが稼動するマシンにインストールできます。  
(インテル社 VPro テクノロジー、Xeon プロセッサもサポートしています。)

### コンパチビリティ

オペレーティング システム	サーバー マネジャー	クライアントマネジャー
Windows 2003 サーバー	■	
Windows 2000 サーバー (SP3 or above)	■	
Windows Vista	■	■
Windows XP	■	■
Redhat エンタープライズ サーバー 4, ES3 (Update 4) ( 2.6.9-5.ELsmp / 2.4.21-27.ELsmp )	■	
Redhat ワークステーション 4, WS3 (Update 4) ( 2.6.9-5.ELsmp / 2.4.21-9.ELsmp )	■	■
Redhat デスクトップ 9 ( 2.4.20-8smp )	■	■
SuSE エンタープライズ サーバー 9 ( 2.6.5-7.97-default )	■	
SuSE プロフェッショナル 9.2 ( 2.6.8- 24-default)	■	■
Novell Linux デスクトップ 9 ( 2.6.5- 7.111-default)	■	■
Fedora Core 3 (2.6.9-1.667 )	■	

## Linux x64 オペレーティング システム動作環境

もしも Redhat/Fedora Core x64 Linux ディストリビューションを使用する場合、the Compatibility Arch Support (Multilib Support Packages)をロードする必要があります。ロードされているか否かをチェックするには、システムセッティング、アプリケーションの追加 / 削除、を選択し、本パッケージがインストールされているか否かを確認して下さい。もしインストールされていなければインストールを実行して下さい。

## ハードウェア動作環境

- 200MB ディスク空容量
- 512MB メモリー

## ブラウザー環境

- Internet Explorer 6 (サービスパック 1)以上
- Mozilla Firefox (V1.0.x 以上)

## 配置オプション

アドミニストレーターは、システムを管理するため、System Area Manager マネジャー インターフェイスを表示するインターネット エクスプローラーか FireFox を使用します。

本製品は、以下の方法で使用します。System Area Manager サーバー マネージャー は、サーバー、デスクトップ、ノートブック、全てのマシンを管理することができます。

1. 本ソフトウェアを、管理対象マシンにインストールして、システム管理(監視、モニタリング)を実行します。
2. 管理対象マシンからソフトウェアを実行するだけではなく、インターネットに接続されている他のどのマシンからでも、System Area Manager のコンソールを呼び出して管理(監視、モニタリング)を実行することができます。また、リモートコントロール機能によって、遠隔地のマシンに、管理対象マシンの画面を取得、転送し、遠隔地から管理対象マシンの処理をコントロールすることもできます。本ソフトウェアは、ライセンスを追加購入することにより、1つの管理コンソールから最大 500 台のマシン(サーバー、デスクトップ、ノートブック)をコントロールすることができます。

アドミニストレーターは、システムを管理するため、System Area Manager マネジャー インターフェイスを表示するためインターネット エクスプローラーか FireFox を使用します。

管理対象マシンは、イベント通知メッセージ(マシンの異常等の警告警告通知)をアドミニストレーターへ Email、SMS/Pager、ネットワーク メッセージ、SNMP Trap へ、システム イベントログまたはイベントを System Area Manager 管理コンソールへ送信することができます。

## Chapter 1: インストールとコンフィグレーション

本チャプターは、Windows、Linux オペレーティング システムプラットフォームへ System Area Manager をインストールし、構成 (コンフィグレーション) する方法が記載されています。

また、本ドキュメントの他に、クイック スタートガイドも合わせてご参照下さい。  
本ガイドは、インストールと警告を送信するための Email をコンフィグレーションする方法が記載されており、数分間でご参照いただけます。

### インストール方法 - Windows

1. 製品 CD をシステムに挿入し、インストールしたい製品を選択し実行します。ダウンロード版の場合はダウンロードした実行ファイル (ファイルが圧縮されている場合は、圧縮されたファイルを解凍) をダブルクリックして実行します。インストールウィザードがスタートします。
2. ユーザーインターフェースの言語を選択します。
3. インストール先フォルダーを選択します。(フォルダー名にスペースを含めることはできません。)
4. すでに使用されていない限り、デフォルトの RMI ポート番号 1099 を変更しないで下さい。
5. System Area Manager サーバーの Web サーバーとブラウザー間の通信に、データの 128-bit の暗号化を使用する場合、SSL オプションを選択して下さい。(デフォルト=No)
6. インストール終了後、サービスをスタートすると System Area Manager はシステムのモニタリング環境をダイナミックに検地し、その内容を自動的に構成します。

### インストール方法 - Linux

必要なファイルをダウンロード、または 製品 CD からソフトウェアを選択し、Linux システムへコピーします。

1. ファイルを解凍し、ファイルを実行する権限を変更します。
2. ./install を入力します。- そして以下の通り実行します。
3. ユーザーインターフェースの言語を選択します。
4. インストール先フォルダーを選択します。(フォルダー名にスペースを含めることはできません。)
5. すでに使用されていない限り、デフォルトの RMI ポート番号 1099 を変更しないで下さい。
6. System Area Manager サーバーの Web サーバーからブラウザーへ、データを 128-bit の暗号化を使用する場合、SSL オプションを選択して下さい。(デフォルト=No)
7. インストール終了後、サービスをスタートするとシステムのモニタリング環境をダイナミックに検地、構成します。

## ファイアーウォール(FireWall) セキュリティー

Linux システム上でファイアーウォールを使用する場合、以下のポートはオープンされていなければなりません。(オープン方法は Linux マニュアルをご参照下さい。)Windows の場合は、System Area Manager のインストールで、自動的にオープンされます。

- 3894 - エージェント マネージメント サービスで使用されます。
- 3895 - セントラル マネージメント サービスで使用されます。
- 3930 - Web サーバー サービスで使用されます。
- 5800 - SyAM マネージャーからリモート コンソール アクセスに使用されます。
- 5900 - SyAM マネージャーからリモート コンソール アクセスに使用されます。

## System Area Manager プログラム メニュー オプション (Windows)

インストールは Windows プログラム メニューの配下に以下のオプションを設定します。

### メニュー オプション

- スタート メニュー上
- <プログラム>
- <SyAM>
- <ユーティリティ>
- <SCSI SMART モニタリング可能>
- <XP-2003 ポート アップデート>
- <リリースノート>
- <リモート コンソール ユーザー セットアップ>
- <サーバー/デスクトップ モニター コンソール>
- <ユーザー マニュアル>

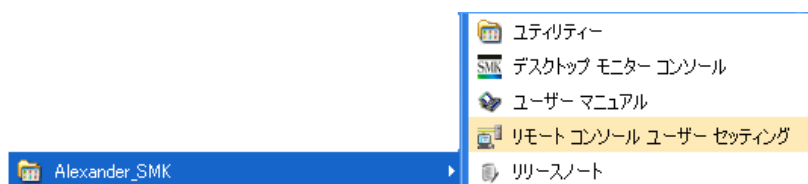


Figure 1: System Area Manager プログラム メニュー

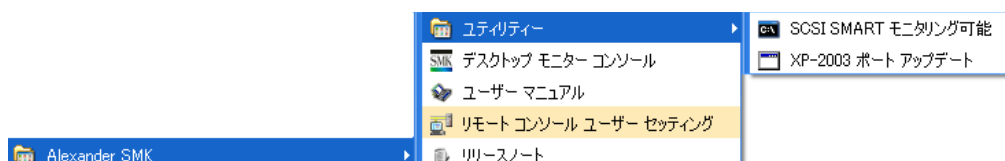


Figure 2: System Area Manager プログラム ユティリティ メニュー

もしもソフトウェアのインストール後に Windows XP / 2003 等でサービスパックを更新した場合、ソフトウェアが使用するファイアウォールポートをオープンにするため、ユーティリティ メニュー内、XP-2003 ポート更新を選択してプログラムを実行して下さい。ファイアウォール ポートは自動的に、かつ正確にオープンされます。

デフォルトでは、システム内のドライブは、ATAまたはS-ATAが接続されているものとして、ドライブの不具合、故障の予知を行うため SMART モニタリングを、1日1回(24時間に1回)実行します。もし、システム上で SCSI ディスクを使用する場合は、“Enable SCSI SMART Monitoring”を選択し、システムをリブートして下さい。これで、SCSI ドライブの SMART モニタリングが実行されるように構成されます。

## System Area Manager アンインストール (Windows)

System Area Manager ソフトウェアを windows システムからリムーブします。:

1. スタートメニューから <設定> <コントロールパネル> <プログラムの追加と削除>を選択します。
2. System Area Manager をハイライトして <削除>を選択します。確認画面が表示されます。
3. 以下は削除画面です。もし、再インストールした場合、システムの再起動が必要です。

## System Area Manager アンインストール (Linux)

System Area Manager ソフトウェアを Linux システムからリムーブします。:

1. System Area Manager ソフトウェアがインストールされたトップレベルのディレクトリーへ移動します。
2. ./uninstall を入力します。

ソフトウェアはアンインストールされます。

```
d915glvg-emc:/alan #  
d915glvg-emc:/alan #  
d915glvg-emc:/alan # ./uninstall  
are you sure you want to uninstall [y/n]? y  
uninstalling product...  
shutting down services... done  
removing services from system service list... done  
removing /alan... done  
uninstall complete  
  
d915glvg-emc:/alan # █
```

Figure 3: System Area Manager – Linux のアンインストール

## Chapter 2: ログイン

本チャプターは、*System Area Manager* ユーザーインターフェースへのログインに関する詳細が記載されています。

## System Area Manager Web サーバーへのブラウジング

インストールに接続されている、どこのシステムからでもブラウザをオープンし、他のシステム上にインストールされている System Area Manager マネジャーの System Area Manager ユーザー インターフェイスをアクセスすることができます。  
以下の通り入力します。:

[http://IP アドレス または マシン名:3930](http://IPアドレスまたはマシン名:3930)

サンプル <http://192.168.1.19:3930>

サンプル <http://FILESEVER:3930>

インストール時に SSL を指定した場合、“http”に代えて、“https”を使用します。:

サンプル: [https://IP アドレス または https://マシン名:3930](https://IPアドレスまたはhttps://マシン名:3930)

以下のログイン スクリーンが表示されます。

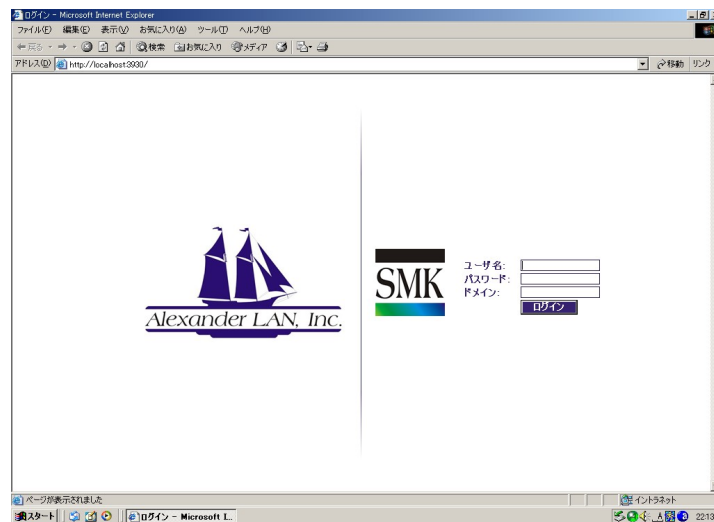


Figure 4: ログイン スクリーン

勿論、ソフトウェアをインストールしたマシン上でプログラムメニューから System Area Manager サーバーコンソールを立ち上げることもできます。

System Area Manager は、それ自身で個別のユーザー名、パスワードを持っていません。これはオペレーティング システムにログインする際に要求されたログイン名、パスワードを使用します。このアカウントはシステム上にすでに存在します。ログインは以下の条件を満足しなければなりません。:

### スタンドアローン システム( Windows ドメインを使用していない場合)

- システム上で有効なユーザー名、パスワードを使用する。
- ユーザーはアドミニストレータ権限を持っている。

### Windows ドメイン内のシステム

- ドメイン内で有効なユーザー名とパスワードを使用する。
- ユーザーは Windows ドメイン内で “Domain Admin” 権限を持っている。
- 有効なシステムのためのドメイン名を入力します。

### Linux システム

- ログインするシステムに有効なユーザー名、パスワードを使用する。

### セッションの終了

マネージメント セッションが終了したら、メインサーバーのログアウトを選択します。ログアウトが成功すると、以下の通りログイン画面が表示されます。:

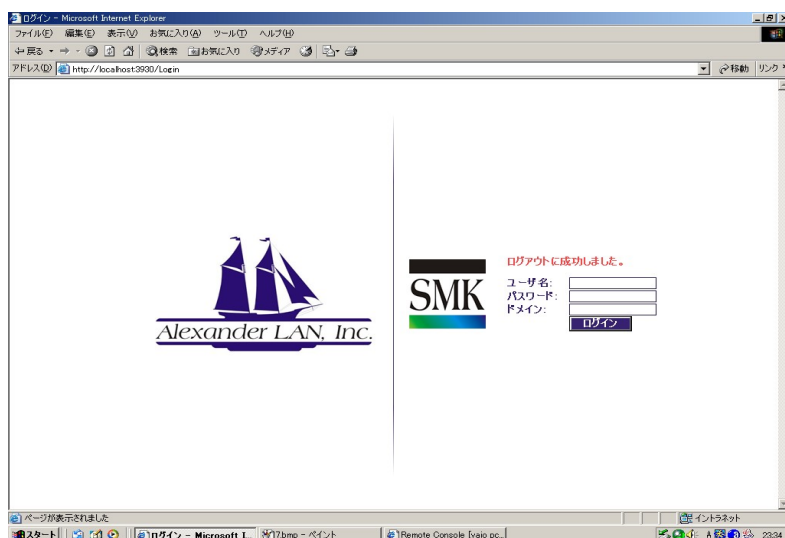


Figure 5: ログアウト成功

30 分間、使用していない場合、自動的にログアウトを実行するセキュリティが追加されています。Internet Explorer を使用している場合、これを知らせるために再ログインの必要があることをメッセージボックスで表示します。Firefox ブラウザーを使用している場合、ログイン画面へ戻ります。

# Chapter 3: System Area Manager

## ユーザー インターフェース

本チャプターは、*System Area Manager* ユーザーインターフェースの使用方法に関して記載しています。

## ユーザー インターフェイス

System Area Manager ソフトウェアは、ユーザー インターフェイスからシステムの内容を管理する機能をアドミニストレーターへ提供します。

## インターフェイス レイアウト

ユーザーインターフェイスの内容、レイアウトは共通です。管理されるすべてのシステムは画面左にツリー表示されます。選択されたシステムの詳細情報はメイン画面の右側に表示されます。(下図は、複数の管理対象マシンを登録している画面です。)

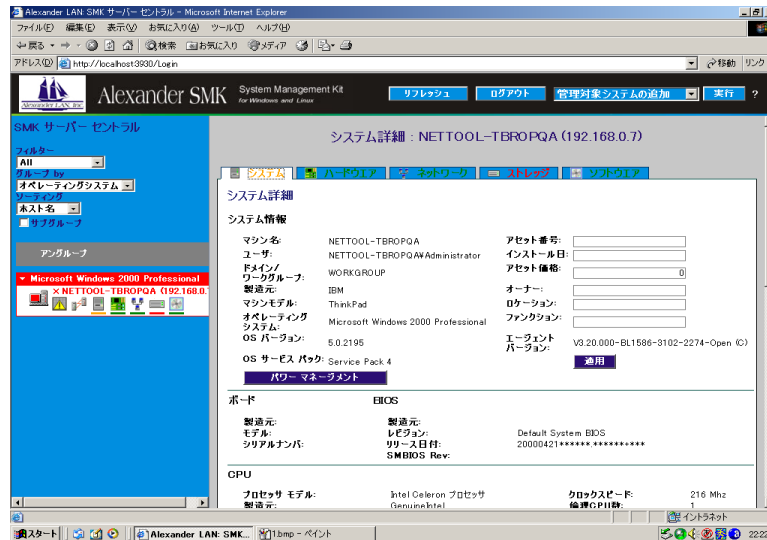


Figure 6: System Area Manager マネージャー ユーザー インターフェイス レイアウト

## ヘッダーバー

ヘッダーバーには、3つの機能ボタンがあります。- リフレッシュ、ログアウト、オンライン ヘルプです。そしてセントラル マネージメント機能のためのドロップダウン メニュー - 管理対象システムの追加、Welcome ページ、セントラル アラート マトリクス、イベントログ、レポート、そしてライセンス マネージメント があります。



Figure 7: ヘッダーバー

## ヘルスカラー

システムの問題を迅速、かつ正確に識別するため、System Area Manager ソフトウェアは、システムおよびそれらのコンポーネントの健康状態を一貫した配色を用いて表示します。これらの色は、監視のすべてのレベルにおいて使用されます。(システム、コンポーネント、カテゴリー、セクション、等)個々の管理対象システムの健康は、定期的な間隔でアップデートされます。健康色は、問題が解決されるまで、変更された状態のままとなります。

	グリーン = 問題無し、健康状態です。
	アンバー = 警告
	レッド = 危険
	グレー = 現在まだ判断できていない状態
	パープル = 反応していないシステム
	ブルー = エージェント サービスがマニュアルでシャットダウンされたシステム
	ブラック = シャットダウンされているシステム
	シアン = ライセンスが満了しているシステム

Figure 8: System Area Manager ヘルス ステータス カラー

## アイコン

管理対象システム上で稼動している System Area Manager ソフトウェアのタイプを表すアイコンは、以下の3種類があります。

System Area Manager サーバー マネージャー



System Area Manager デスクトップ マネージャー



## マネージメントツリーへシステムを追加

管理対象システムは、System Area Manager ソフトウェアのマネージメントツリー内へ登録される必要があります。

追加できるシステムの数、ライセンスキーによるシステム制限により設定されています。(ライセンスの追加は、いつでもご購入いただけます。)

一旦、システムが追加されると、イベントメッセージは System Area Manager ソフトウェアへ送信されるようになります。

System Area Manager へシステムを追加するには、ヘッダーバーにあるドロップダウンメニューから、管理対象システムの追加を選択します。

1. IP アドレスを From と To フィールドへ入力します。

追加するシステムの IP アドレスを From と to フィールドへ入力します。  
ネットワークに接続されているシステムを複数検索して追加する場合は、IP アドレスの下限を From フィールドへ、上限を To フィールドへ入力します。  
入力する IP アドレスは、レンジ幅を少なく入力することをご推奨します。  
大きな幅や適当ではないアドレスを入力すると、長い待ち時間が発生することがあります。

2. ロケーション、ファンクションを入力します。(入力した内容は、ツリー内のグルーピングやソーティングに使用されます。)
3. Apply ボタンを選択します。
4. 一旦、システムの検索が完了すると、登録されたシステムのステータスの内容を参照することができます。

管理対象システムの追加

管理されるシステムの追加

ライセンス数まで管理対象システムを追加することができます。ライセンスの詳細は、ライセンス マネージメントページをご参照下さい。

IP アドレス レンジ: From:  To:

マネージメント ツリーで管理対象システムをグルーピングする情報を入力して下さい。

ロケーション:

ファンクション:

Status

Figure 9: IP アドレスレンジを使用した管理対象システムの追加

## 管理対象システムのリムーブ(除去)

System Area Manager ソフトウェア、マネージメント コンソール ツリーから管理対象システムをリムーブ(除去)したい場合:

- システムの名前の隣の <X> をクリックします。
- 本システムの削除を確認する画面が表示されます。



Figure 10: マネージメントツリーからシステムをリムーブ

一旦、システムをマネージメントツリーからリムーブすると、モニタリング、監視、警告(レポート)機能は中断されます。

## マネージメントツリーのためのグルーピング、ソーティング

(※本セクションはライセンスを追加して、複数マシンを管理する場合にご参照下さい。)

マネージメントツリー上に表示されるシステムのリストは、デフォルトでは、オペレーティング システムによってグルーピングされ、マシン名でソートされています。アドミニストレーターはドロップダウンリストから、ロケーション、またはファンクションによって参照するためのグループを変更することができます。アドミニストレーターがシステムをリスト内から探し出す手間を軽減します。

ドロップダウンメニューを使用することにより、グルーピング内で、マシン名、または IP アドレスによってソートされたシステム表示を選択することができます。これは、IP アドレスをキーとしたソーティングのための、IP アドレス/マシン名の表示から、マシン名をキーとするソーティングのための、マシン名/IP アドレスの表示へ並べ替えを行います。

アドミニストレーターは、各管理システムのためのロケーションとファンクション フィールドを変更することができます。もしも管理対象システムで定義しなければ、グルーピングされていないシステムとして表示されます。

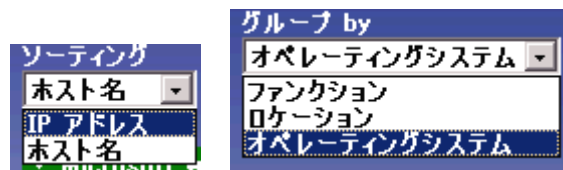


Figure 11: マネージメントツリーのソーティング、グルーピング

## System Area Manager マネージメント コンソール ツリーの拡張

(※本セクションはライセンスを追加して、複数マシンを管理する場合にご参照下さい。)

System Area Manager マネージメント コンソールは、アドミニストレーターに、全体のビュー、個々のシステムのビュー、各コンポーネントのビューとそれぞれの階層に分けてのビューをご提供します。

各グループ内のシステムのリストを拡張するには、オペレーティングシステム、またはファンクション、またはロケーションをクリックします。各システムの名前と IP アドレスがウインドウの左側に表示されます。

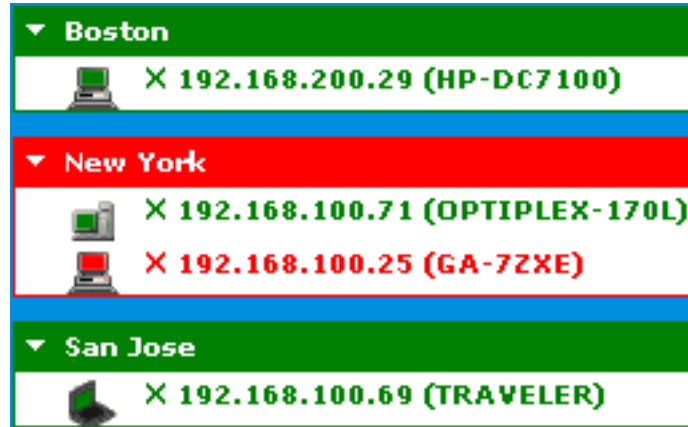


Figure 12: マネージメントツリー – グループとともに各システムを拡張表示

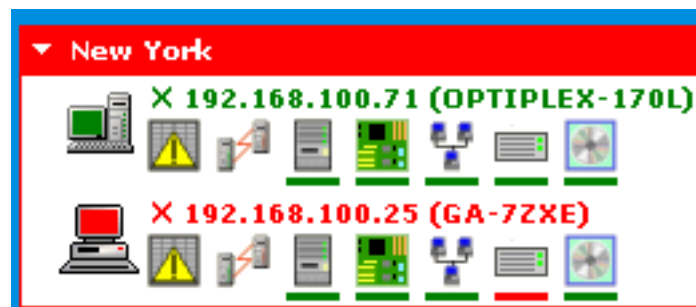









Figure 13: マネージメントツリー – グループ、システム、モジュールに拡張された表示

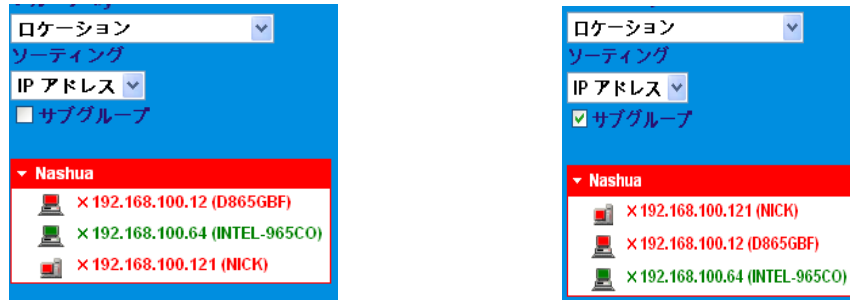
## アイコン

	<p>システム アラート マトリクス – 警告に関する様々なオプション内容をシステム内の全ハードウェアとソフトウェア センサーへ提供して使用するための内容の設定機能を提供します。</p>
	<p>リモートマネージメント – リモートファンクションである、シャットダウン、再起動、Wake on LAN、そしてアドミニストレーターがリモートシステムのキーボード、マウス、スクリーンにフルアクセスするためのリモートコントロール機能を提供します。 IPMI – システムが稼働中、IPMI イベントログデータへのアクセスを提供します。さらに、IMPI Over LAN Power Management により、パワーオフされたマシンへのイベントログもアクセスできます。</p>
	<p>システム – システムボード、メモリー、CPU、スロット、ディスプレイ、ポート情報、CPU とメモリーの使用率ステータス等をモニターし、さらにメモリーエラー情報も表示します。</p>
	<p>ハードウェア – システム内のセンサー情報と現在の物理センサー上のステータスをモニターします。</p>
	<p>ネットワーク – ネットワークアダプターのコンフィグレーション情報と、システム内の全アダプター コンフィグレーションのパフォーマンスに関する情報を提供します。</p>
	<p>ストレージ – ストレージ デバイスと管理されている RAID コントローラーのための、物理ストレージ デバイス、コントローラー、論理デバイス情報と健康ステータスを提供します。</p>
	<p>ソフトウェア – OS 上のプロセス、インストールされたアプリケーションの情報を提供します。また、リモート、プロセス マネージメントを提供します。</p>

### マネージメント ツリーのグルーピング、ソーティング によるフィルタリング オプション

マネージメントツリー上のシステムのリストは、デフォルトで、各マシンのヘルスステータス(健康状態)によってフィルタされ、オペレーティング システムによってグルーピングされ、マシン名でソートされています。フィルターを使用するには、ドロップダウンメニューから表示したいマシンのヘルスステータスを選択します。グループも同様にドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムかロケーションを、ソーティングも同様にドロップダウン

Figure 15: ロケーションでグルーピングされ、IP アドレスでソーティングされ、サブグループ不使用



ンメニューから IP アドレスかホスト名を選択することができます。アドミニストレーターは、システム詳細画面から、ロケーション、ファンクションを変更することができます。もし、この内容が定義されていない場合は、アングループというグループ名称で表示されます。もしもサーバー、デスクトップ、ノートブックがモニターされている場合は、サブグループ オプションが表示されます。サブグループ チェックボックスをクリックを選択すると、マシンの種類別に表示され、サーバー、デスクトップ、ノートブックの順に参照することができます。サブグループを選択しなければ、サブグループは使用されません。



Figure 16: マネージメントツリーのフィルター、グループ、ソーティング オプション

アドミニストレーターは、見たい内容のマシンをフィルタリングして参照することができます。

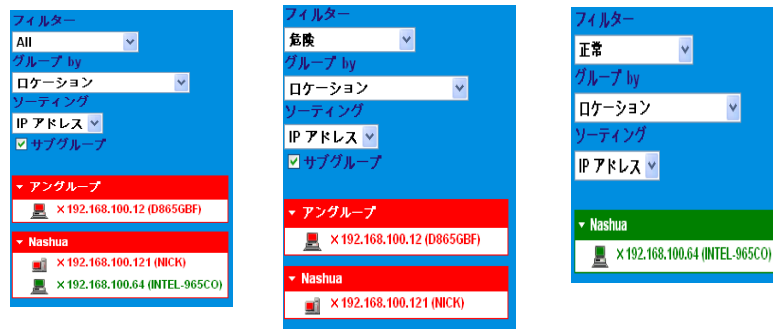


Figure 17: フィルター オプションのサンプル

## Chapter 4: ライセンス マネージメント

本チャプターは、*System Area Manager*ソフトウェアの評価期間満了後、継続使用するためのライセンスキーのプロセス方法、そして *SyAM* マネージャーが管理するシステム数を追加する方法について記載しています。  
(※ご購入後、新たに管理対象マシンを追加することができます。)

## ライセンス マネージメント

1 つの System Area Manager マネージメント コンソールは、最大 500 システムを管理することができます。管理対象マシンの数は、ライセンスキーを通して管理されます。

セントラル ライセンス マネージメント

セントラル ライセンス マネージメント

**サポート情報**

シリアルナンバ	00000000
ライセンス認証日	
サポート満了日	

---

**現在のライセンスコンフィグレーション**

試用期間満了	Fri Sep 29 14:37:00 EDT 2006	
システムタイプ	現在のカウンタ	現在のリミット
Server	1	2
Desktop/Notebook	0	3

[Generate License Key File](#)

---

**新ライセンスキー プロセッシング**

新ライセンスキー ファイル:  [参照...](#)

[Upload License Key](#)

Figure 14: ライセンス マネージメント スクリーン - 評価期限が表示されています。

さらに多くのシステムを管理するか、体験版の評価期限満了から継続してソフトウェアを使用するためには、ライセンスキーを購入していただく必要があります。

ヘッダバーのドロップダウンメニューからライセンス マネージメントを選択します。

ライセンスキーをご購入いただくには、以下のステップを実行します。

- System Area Manager マネージメント コンソールからライセンスキーファイルを作成します。
  - ライセンスキーを購入するために、ヘッダバーのドロップダウン メニューから、ライセンス マネージメント スクリーンをオープンします。
  - “ライセンスキー作成” ボタンをクリックします。
- 作成したファイルをご購入いただく販売店、または弊社へ Email 等で送付します。
- 管理 / 追加したいデスクトップ/ノートブック、サーバーの数をご連絡ください。
- ご注文の内容をプロセスして、ご注文情報を含むライセンスキー ファイルが作成します。
- ライセンスキーファイルは通常 Email でお届けいたします。
- System Area Manager 上で、ライセンス マネージメント スクリーンをオープンして購入したライセンスキーを登録します。
  - 新しいライセンスキー ファイルが保存されている場所を参照ボタンを使用して選択します。
  - “ライセンスキーアップロード” ボタンを選択します。
- System Area Manager はライセンスキー ファイルをプロセスして、システムの制限を拡張し、新しいコンフィグレーションを追加します。
- ライセンスキーの最初のご注文の場合、12 ヶ月間有効な、ソフトウェア メンテナンス サービスを無償で受けることができます。
- もしもご購入いただいたキーがシステムのアップグレード(すでにキーが登録されていて、追加のご購入)の場合、新しいシリアルナンバーが表示され、12 ヶ月間のソフトウェアのメンテナンス サービスは延長されます。

**Note** ライセンス マネージメント スクリーンに表示されるサポート期間が満了しても、ソフトウェアはそのまま継続してご使用いただけます。

<ライセンスの追加に関する詳細は別途、お問合せ下さい。>

## Chapter 5: リモート マネージメント

本チャプターは、*System Area Manager*の ユーザー インターフェースからリモートマネージメントを使用する方法を記載しています。

## リモート マネージメント

System Area Manager は、管理対象システムのためのリモート マネージメント機能を提供します。この機能には、Wake on LAN、シャットダウン、再起動、リモート コンソール、IPMI イベントログ、IPMI が有効な管理対象システムで、IPMI Over LAN を含んでいます。

1 台のマシンを管理している場合は、管理対象システムを遠隔地のマシンからリモート管理することができます。この場合、遠隔地のマシンから Web サーバーを使って System Area Manager コンソールを呼び出し System Area Manager コンソールへログインします。(遠隔地のマシンから、http://IP アドレス:3930 を入力して、System Area Manager ログイン画面を呼び出し、ユーザー名/パスワードを入力してログインします。)このコンソール内で、以下のリモートマネージメントのための操作を実行して下さい。遠隔地のマシンから管理対象マシンをリモートコントロールすることができます。複数ライセンスの場合は、System Area Manager コンソールから、どこの管理対象マシンでもリモートコントロールできます。(勿論 Web サーバーを使用して、上記の機能を使用することもできます。)

リモート マネージメント アイコンをクリックします。; System Area Manager 管理コンソールのツリーから下記の通り本オプションを選択します。

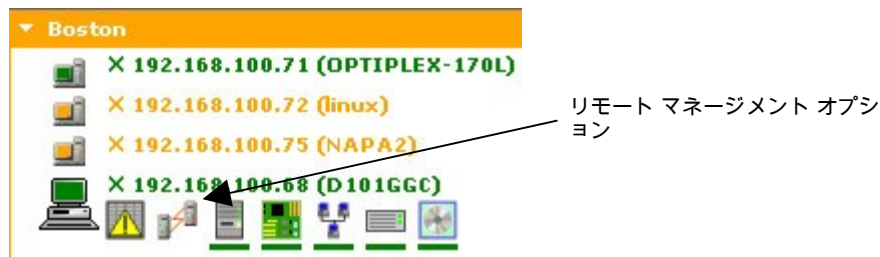


Figure 15: リモートマネージメント オプション

## システム ステータス

システムステータスには、選択したシステムの現在の情報が含まれています。System Area Manager は、シャットダウン/再起動、Wake on LAN、リモート コンソール のマネージメント オプションをご提供します。

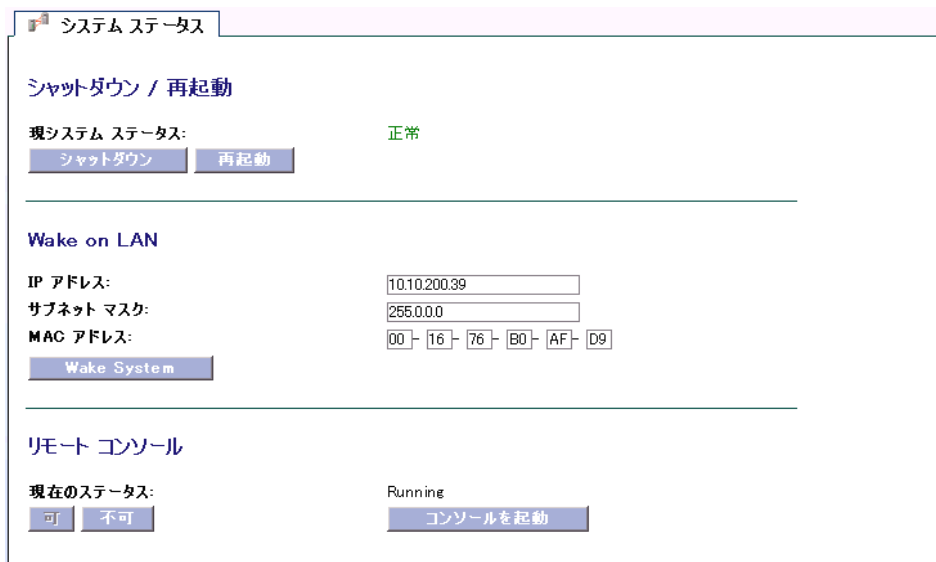


Figure 16: システム ステータスと Wake on LAN 機能

システムのシャットダウン、再起動は、正常、警告、危険状態のいずれの状態でも動作します。

- システムをシャットダウンするには、〈シャットダウン〉をクリックします。
- 動作実行を確認する画面が表示されます。
- システムの再起動には、〈再起動〉をクリックします。
- 動作実行を確認する画面が表示されます。

### Wake on LAN (WOL)

Wake on LAN は、アドミニストレーターが管理対象システムを、System Area Manager コンソールから電源 ON するための機能です。Wake on LAN 機能を使用するためには、管理対象システムの BIOS が WOL をサポートしている必要があります。

本機能を使用するには、対象のシステムのステータスは、シャットダウン状態である必要があります。

- IP アドレス、MAC アドレスはサーバー/デスクトップ マネジャー に自動的に保存されています。
- リモートから 〈wake system〉 ボタンをクリックします。

アドミニストレーターは、WOL コマンドを使用する際、ネットワーク 接続に関する MAC アドレスと IP アドレスを画面から変更することができます。

Note WOL 機能を使用するには、WOL をサポートした ネットワーク アダプターを使用する必要があります。

## リモート コンソール

リモート コンソールは、サーバー/デスクトップ マネージャー インターフェースを通して、管理対象システムのスクリーン、キーボード、マウスを直接コントロールする機能を提供します。

リモート コンソールにアクセスするには、マネージメントツリーからシステムを選択し、リモート マネージメント スクリーンをオープンするためリモート マネージメント アイコンをクリックします。スクリーンの下段には、リモート コンソールのステータス、リモート コンソール実行の可/ 不可、コンソール スタート ボタンが表示されます。

コンソールをスタートする際、ステータスは、実行中でなければなりません。

リモート マネージメント システムをスタートするには、可 ボタンをクリックします。サービスをストップするには、不可 ボタンをクリックします。コンソール起動 ボタンをクリックするとリモート コンソール セッションが確立されます。

リモート コンソール機能を使用したら(ソフトウェアを実行させ、終了したら)リモート コンソール機能を使用した毎に不可 に変更することをご推奨します。;ただし、管理対象システムを再起動させれば、ソフトウェアは自動的にクリアされます。

The screenshot displays a web interface for managing a system. At the top, there is a tab labeled 'システム ステータス'. Below this, the section 'シャットダウン / 再起動' shows the current system status as '正常' (Normal). There are two buttons: 'シャットダウン' and '再起動'. The 'Wake on LAN' section includes input fields for 'IP アドレス' (10.10.200.39), 'サブネット マスク' (255.0.0.0), and 'MAC アドレス' (00-16-76-B0-AF-09), along with a 'Wake System' button. The 'リモート コンソール' section shows the current status as 'Running' and includes '可' and '不可' buttons, as well as a 'コンソールを起動' button.

Figure 17: リモート コンソール の実行

コンソールを起動するためにパスワードを入力します。(Windows の場合のデフォルトは、1234、Linux の場合のデフォルトは、12345678)そして、コンソール セッションはリモート システムへのアクセスを開始します。

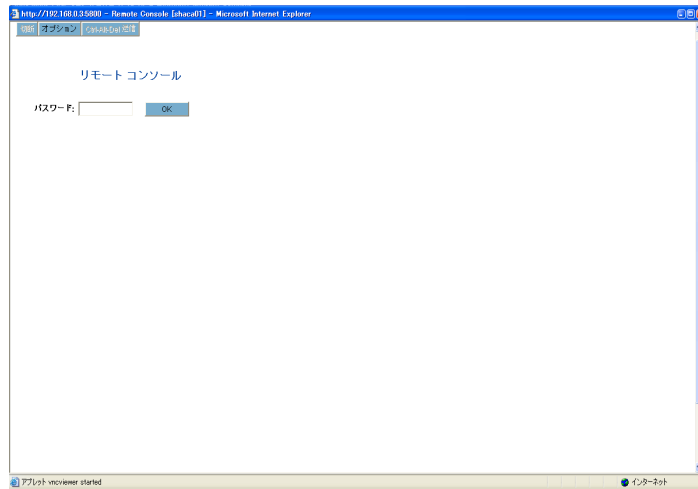


Figure 18: リモート コンソール ログイン

これで、管理対象システムのスクリーンが表示され、コントロールできます。終了するには、切断をクリックし、ウィンドウを閉じて下さい。



Figure 19: リモート コンソール - リモート システム の管理

## デフォルト パスワードの変更

デフォルトのパスワードを変更する方法です。:

Windows:

管理対象システム上の、System Area Manager のプログラムメニューからリモート コンソール セットアップを選択します。そして新しいパスワードを入力します。パスワードの最大は、8 桁です。(パスワード変更には、ローカルシステムに対して管理者権限 (administrator) が必要です。)

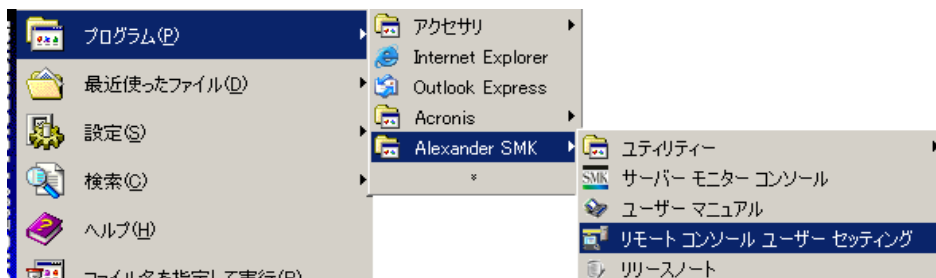


Figure 20: リモート コンソール – リモート コンソール セットアップの変更

もしも、デフォルト パスワードが変更できない場合、以下の内容をご確認下さい。

リモート コンソール サービス はローカル システム上で動作します。  
リモート コンソール サービスは、System Area Manager から特定のシステムの、またはローカル システム上のサービスをスタートし、リモートマネージメント オプションを選択することにより可能になります。

ローカル システムでサービスを開始するために下記内容を実行します。  
スタートメニュー->コントロールパネル->管理ツール->コンピュータの管理>サービス

Remote Console まで下げ進みます。そしてこのサービスを選択して、本ウインドウの上部にある、サービスの開始アイコンをクリックします。

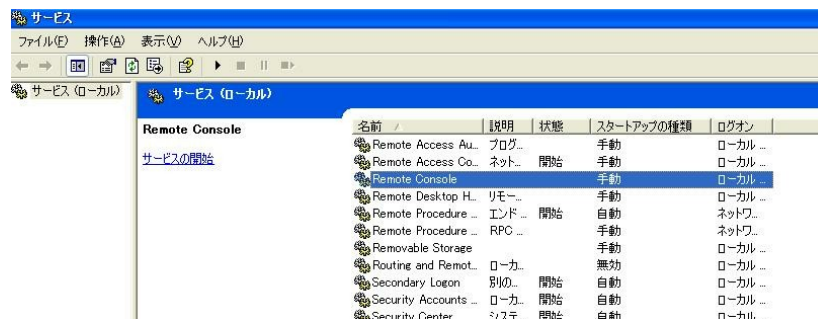


Figure 21: ロモート コンソール – リモート コンソール サービスのスタート

サービスがスタートすれば、リモート コンソール デフォルト パスワードは変更できるようになります。

linux:

Cd から SyAM マネージメント ソフトウェアがインストールされているディレクトリーのトップレベルから、以下を入力します。:

```
cd system_monitor/remote_console
./vncpassword
```

新パスワードを入力し、確認します。

リモート コンソール セッションの終了  
リモート コンソール セッションを終了するには、メニューの切断ボタンをクリックします。



Figure 22: リモート コンソール - 切断

## IPMI イベント ログ

※本セクション(35 ページから 37 ページ)は、管理対照ハードウェアが、IPMI 機能をサポートしている場合のみご参照下さい。

System Area Manager は、管理対象の IPMI 対応サーバーで発生する物理イベントをモニターすることができます。これらのイベントは、System Area Manager サーバー マネジャー を通じてアクセスされ、IPMI イベントログへ蓄積されます。各イベントはユニークなナンバーと日付が与えられます。IPMI イベントログ内の情報は、イベントタイプ、影響を受けたセンサータイプ、そしてイベントアラートタイプに関する情報が蓄積されます。

さらに、IPMI イベントログはログのバージョン、エントリー数、前回 追加されたログ、前回 クリアされたログ、ログ蓄積のための空容量をリストします。

ログは、全イベントから内容やレンジによってフィルターを通してレビューすることができます。そして、ログを画面表示するか、または、ログデータをクリアする前等には、データをエクスポートして CSV フォーマットのファイルに残す事ができます。

IPMI イベント ログは、アドミニストレーターが、発生した全てのイベントを、そして、特定のサーバーによってレポートされた内容を参照することができます。IPMI イベント ログにアクセスするために、システムは IPMI をサポートしたハードウェアで、そしてサーバー マネジャー が有効になっていなければなりません。

本スクリーンに含まれるフィールドは以下の通りです。:

- IPMI バージョン
- ログ中のエントリー数
- 前回ログ中にエントリーされた日次
- 前回ログをクリアした日次
- 空容量

IPMI イベントログは、アドミニストレーターがオプションを使用して内容をクリアすることができます。〈クリア〉ボタンをクリックします。

Note: クリアした内容は復旧することができません。ご注意下さい。

### **IPMI イベントログの抽出**

IPMI イベント ログは、アドミニストレーターがオプションによって、サーバーに蓄積された全て、または一部のイベントを抽出して参照することができます。そして、それをタイプ別に並べ替えることができます。

BMC (Baseboard Management Controller)に蓄積された IPMI イベント ログから全イベントを抽出するにはラジオボタンの全てを選択します。

イベントの一部を抽出するには、イベント ID のスタート値とエンド値を入力します。イベント ID のスタート値は、0 以上の実際のイベント ID (0 を入力するとログの最初から抽出されます。) でなければなりません。もしも入力値が誤りであればエラーメッセージが表示されます。

イベントログを抽出するためのボタンをクリックします。スクリーン下部のウィンドウへ内容が表示されます。

イベントに対応する ID 値は、IPMI コントローラーによって割り当てられます。そしてシステムのファームウェアが構成された方法に依存しています。したがって、イベント ID は、サーバー プラットフォームによって異なります。

### **CSV ファイル作成**

このボタンは、抽出したイベントを CSV ファイルへ保存します。

## **IPMI Over LAN**

システムが稼働中、または停止中であっても、IPMI Over LAN パワーマネージメントとイベントログを提供します。

IPMI Over LAN 機能を使用する前に、はじめに、BMC IP アドレス、パスワードで使用するベンダーが用意したユティリティを構成する必要があります。

管理対象システムの名前、パスワード、BMC の IP アドレスを入力します。そして適用ボタンをクリックしてこのデータを保存します。

一旦、ユーザー名、パスワード、IP アドレスを保存したら、管理対象システムの BMC へアクセスするために接続ボタンをクリックして下さい。

接続されると、以下のオプションを実行することができます。

### **パワー オフ**

これは、一般的なシャットダウンではないパワー オフを実行します。ハードウェア プラットフォームによって、オペレーティング システムがシャットダウンの通知を受け取るか、否か異なります。

### **パワー オン**

これは電源オンを実行します。

### **パワー リセット**

これは一般的なリセットではない、パワーのリセット機能です。ハードウェア プラットフォームによって、オペレーティング システムがシャットダウンの通知を受け取るか、否か異なります。

### **アイデンティティ**

これはシステムのアイデンティティ (ID) に対応した LED ライトをオンにします。この機能はハードウェアがサポートしている場合のみ有効です。

### **イベント ログ**

IPMI イベントログは前記と同様にアクセスできます。

## AMT (Intel Active Management Technology)

AMTタブは、マシンのボード上で、ローカル システム マネージメントが *Intel AMT* テクノロジーを認識した場合のみ表示されます。サーバー/デスクトップ/ノートブック モニターは、パワーマネージメントを準備して、AMT コンソールは、システムが、休止ステータスの場合でもアクセスすることができます。詳細は [Web サイト](#)、または [別途資料](#)で確認して下さい。AMT 機能を利用する前に、初めにベンダーによって用意されたユーティリティーを使用して、AMT ポート、IPアドレス、パスワードを設定しなければなりません。

管理対象システムの AMT ポートのためのユーザー名、パスワード、IPアドレスを入力し適用ボタンをクリックしデータを保存します。

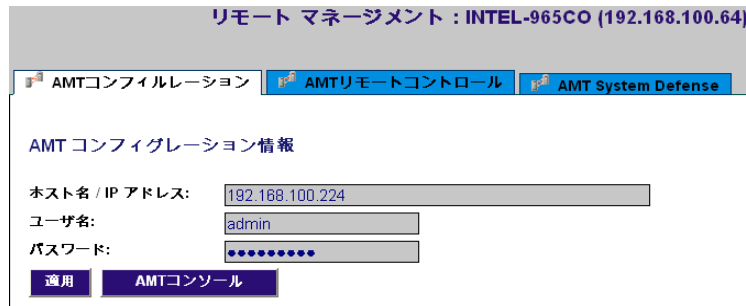


Figure 23: AMT ログインタブ

新しいブラウザ ウィンドウをオープンするために、そして、内蔵された AMT コンソールを直接呼び出すために、AMT コンソール ボタンをクリックして下さい。

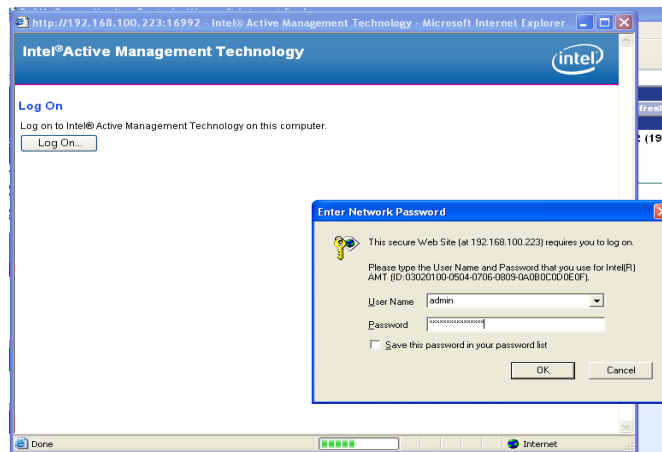


Figure 24: AMT コンソールの呼び出し

一旦、ユーザー名、パスワード、IPアドレスを保存すると、AMTリモートコントロールタブの中の AMT 接続を確立ボタンをクリックすると管理対象システムの AMT over LANをアクセスすることができます。



Figure 25: AMT 接続の確立

一旦接続されれば以下のパワーオプションを使用することができます。

### パワーオフ

本機能は正式なシャットダウンではなく、強制的なパワーオフを実行します。

### パワーオン

本機能はパワーオンを実行します。

### パワーリセット

本機能は正式なリセットではなく、強制的にパワーをリセットします。

### パワー サイクルリセット

本機能はパワー サイクルをリセットします。

Serial Over LAN によって遠隔地からシステムをリポートすることができます。ユーザーが SOL によってリポートする時、SOL セッションはユーザーのブラウザに表示されます。SOL セッションを作成するには、ユーザーは

現在のパワーステータスを確認しなければなりません。そして、次に、『SOL セッション』のボックスをクリックし、それから、『コマンド送信ボタン』をクリックしてください。

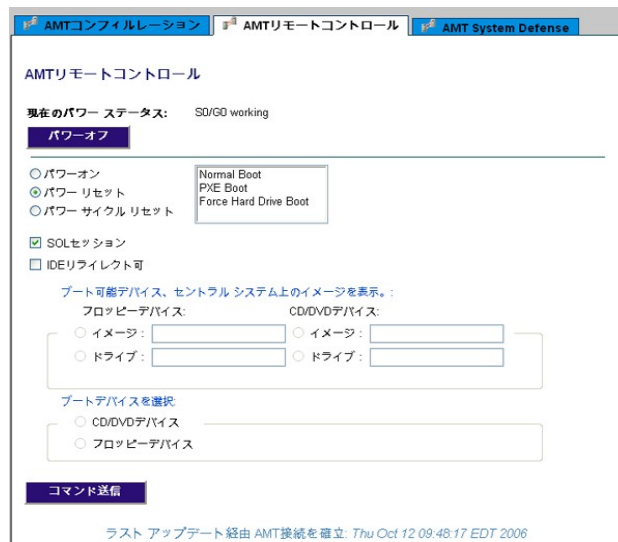


Figure 26: AMT リモートコントロール

**Note:** SOL セッション使用時、システムを通常通りブートすることのみ可能です。PXEのような特別なコマンドは使用することはできません。

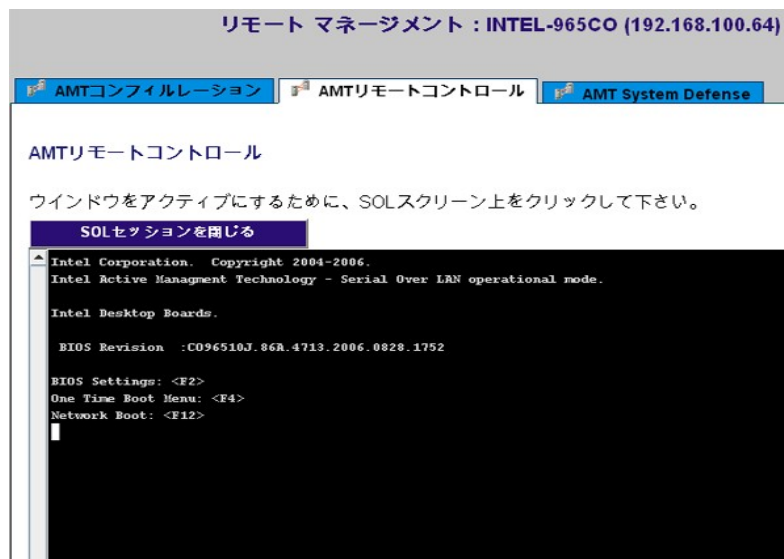


Figure 27: Serial Over LAN (BIOS の再構成中のサンプル)

IDE-リダイレクトはセントラル マネージメントツリー上の管理対象システムに対して、サーバー モニター/デスクトップ モニター が動作しているシステムの、イメージ、フロッピー、CD、DVD デバイスによってブートが許可されます。IDE-リダイレクトは、SOL を使用している時にのみ使用可能です。AMT IDE リダイレクトの1部は、有効なイメージやデバイスを確認するプロセスです。もしフロッピーデバイスがなければ、フロッピーデバイスにイメージを選択しなければなりません。フロッピーデバイスとイメージ、または、CD/DVD デバイスとそのイメージです。これらのドライブ、またはイメージは、サーバー/デスクトップ モニター が動作するコンピュータ上にあります。あなたの Web ブラウザーが動作しているコンピュータではありません。IDE リダイレクターを実施するには、パワーリセット、または、パワーオン ボタンのどちらかをクリックします。イメージ、またはドライブで、どのイメージまたはドライブからのブートであるかを選択します。ブートデバイスを選択し、コマンド送信ボタンを選択します。



Figure 28: IDE-R (CD/DVD からのブート)

Windows または Linux サーバーとデスクトップ モニター を使用する場合、正確にシンタックスが一致した フロッピーディスク デバイスと CD ROM デバイスを使用する必要があります。

もしも CD ROM デバイスの論理ドライブレータが不確かな場合は、Windows SMC/DMC のストレージ スクリーンをブラウズします。もしフロッピーディスクがない場合、ブータブル イメージを選択しなければなりません。

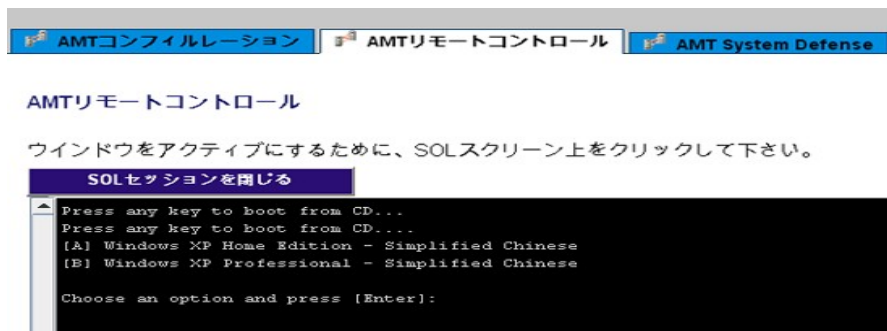


Figure 29: IDE-R (CD-ROM からのリモートブートを使用する場合)

#### IDE-R Drive とイメージ シンタックスのサンプル

サーバー/デスクトップ モニター が、Windows OS 上で動作している場合。

フロッピー デバイス ドライブ **a:**

フロッピー デバイス イメージ **c:\win98dos.img or c:\win98doscd.iso**

CD Rom デバイス ドライブ **d:**

CD Rom デバイス イメージ **c:\win98doscd.iso**

サーバー/デスクトップ モニター が Linux OS 上で動作している場合。

フロッピー デバイス ドライブ **/dev/fd0**

CD Rom デバイス ドライブ **/dev/hda**

システム ディフェンスは、SMC がネットワークセキュリティ方針を定義し、実施することを可能にします。AMT システム ディフェンス タブをクリックし、AMT 接続を確立 ボタンをクリックして AMT マシンとの接続を確立します。



Figure 30: AMT システム ディフェンス (AMT 接続を確立)

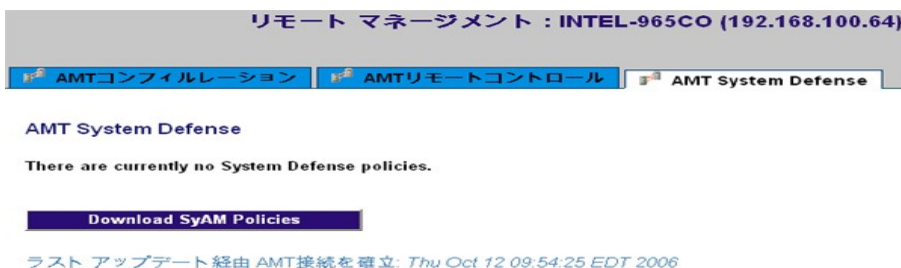


Figure 31: ダウンロード SyAM ポリシー

はじめにシステム ディフェンス スクリーンをアクセスする時、AMT 管理エンジン内にはいかなるポリシーも設定されていません。もし SyAM-Quarantine と SyAM-Management ポリシーが、AMT マネージメント エンジンにプログラムされていない場合、ダウンロードボタンが表示されます。これは、AMT マネージメント エンジン内に SyAM ポリシーが設定されます。スクリーンは自動的にリフレッシュされ、2つの SyAM-Management ポリシーがスクリーン上に現れます。

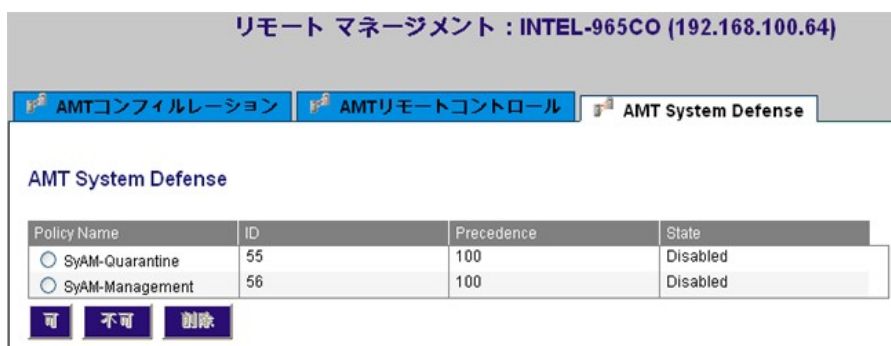


Figure 32: AMT システム ディフェンス ポリシー

初めに3つのボタン、可、不可、削除は使用できません。一旦、ポリシーを選択すれば、可、削除ボタンは使用可能となります。これは、ポリシーを使用可能に、または AMT 管理エンジンからポリシーを削除します。一旦、ポリシーを使用可能にすればステータスはアクティブに変更され、画面上でポリシーのアクティブを見ることができます。一度に1つのポリシーのみ使用可能にすることができます。ポリシーをアクティブにすると、使用不可、削除が選択できるようになります。これはポリシーを使用不可、または AMT 管理エンジンからポリシーを削除することを許可します。“SyAM-Quarantine” ポリシーは Intel AMT デバイスをクライアントのオペレーティング システムからの全てのパケットからブロックします。これによって、アドミニストレーターは、トラブルシューティングやリペアを実行するためにシステムへ行く必要があります。“SyAM-Management” ポリシーは、Intel AMT デバイスをクライアントのオペレーティング システムからの全てのパケットからブロックします。(但し、SyAM マネージメント コンポーネントからのパケットを除きます。)これは、アドミニストレーターが、Intel AMT クライアント システムを、サーバー/デスクトップ モニター リモート コンソール機能でアクセスすることができます。これにより、オペレーティング システムが動作している最中に、システムの調査、またはリペアを行うことができます。

## Chapter 6: セントラル イベント ログイング

本チャプターは、*System Area Manager* ソフトウェアの中央集中のイベント ログ機能へのアクセスの方法について記載されています。  
(本機能はライセンスを追加して複数のシステムを管理する場合、各システムのイベントログを一括で管理する機能です。)

アドミニストレーターは、*System Area Manager* イベントログを使用し、素早くシステム のトレンドを識別することができます。

## セントラル イベント ログ

全システムが System Area Manager ソフトウェア によって(マネージメントツリーで)管理されている場合、イベントは、マネージャー イベントログへ蓄積されます。各イベントは、ユニークな ID ナンバーと日時が与えられ、システム名によるイベントのロケーション、IP アドレス、カテゴリ(ストレージ、ネットワーク、ハードウェア、その他)をリストします。

イベント スクリーンは、イベント上の情報のための詳細です。

カラムヘッダーを選択することにより、イベント ログを並べ替えることができます。;これは昇順か降順への並べ替えになります。

## フィルタリング オプション

System Area Manager は、イベント ログをアドミニストレーターによってさらに進んだフィルタリングと、イベントログ ナンバー レンジ、マシン名、IP アドレス、イベント タイプによる、並べ替えを提供します。結果は、メイン イベント ログ ウィンドウに表示されます。また、他のアプリケーションへエクスポートすることができます。

### イベント ナンバーによるイベントログのフィルター:

- 適当なフィールドへイベントのレンジを決める、スタート値、エンド値を入力します。
- 抽出ボタンをクリックします。
- メイン イベント ウィンドウへ入力したレンジ内のイベントが表示されます。

### マシン名、または、IP アドレスによるイベントログのフィルター:

- 適当なフィールドにマシン名、または IP アドレスを入力します。
- 抽出ボタンをクリックします。
- IP アドレス、システム名にマッチしたイベントがメイン イベント ウィンドウに表示されます。

### イベントタイプによるイベントログのフィルター:

- ドロップダウン メニューからイベントタイプを選択します。
  - 全て
  - プラットフォーム イベント トラップ
  - ハードウェア イベント
  - ネットワーク イベント
  - ストレージ イベント
  - パフォーマンス 使用率 イベント
  - アセット モニタリング イベント
  - 停止中システム
- 抽出ボタンをクリックします。
- 選択したタイプにマッチしたイベントがメイン イベント ウィンドウへ表示されます。

検索範囲を狭めるにはさらに多くのカテゴリーを適当なフィールドに入力して下さい。

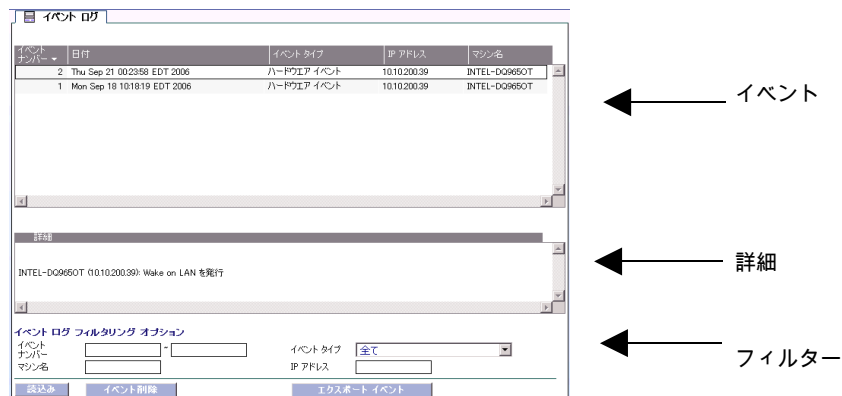


Figure 33: イベントログ

## イベントログレンジのエクスポート

フィルターで抽出されたイベントはエクスポートされ保存、または、印刷することができます、フィルター選択完了後、エクスポート ボタンを選択すると、Microsoft Excel 等で使用できる GSV ファイルへエクスポートされます。

## イベントログ レンジの削除

イベントのフィルターされ、選択された内容(レンジ)は、ログから削除することができます。フィルターの選択完了後、選択された内容(レンジ)を削除するため、削除ボタンをクリックして下さい。削除した内容は復旧できません。ご注意下さい。

## Chapter 7: セントラル レポーティング

本チャプターは、*System Area Manager*ソフトウェアのレポートの機能とその使用方法について記載しています。

アドミニストレーターは、サーバー、デスクトップ、ノートブック内のサマリー、または、アセットデータのレポートを素早く、効果的に作成することができます。

## レポート

System Area Manager ソフトウェアを通して、アドミニストレーターは、モニターされた管理対象システムのサマリー、または、詳細レポートを、スクリーン、印刷、または、CSV または XML フォーマットのファイルへエクスポートし作成することができます。また、作成するレポートはシングル システム、またはグループ内のシステム、または、全てのシステムを選択することができます。(複数マシンを管理している場合)

アドミニストレーターはレポート内の並べ替えのオプションとして、マシン名順、または IP アドレス順のどちらかを選択できます。(複数マシンを管理している場合)



レポート

レポートオン  
 グループ  
 シングルシステム

ソート  
 ホスト名  
 IP アドレス

レポートタイプ  
 サマリー  
 詳細

CSV 作成 XMLフォーマット HTMLフォーマット

Figure 34: セントラル マネージメント レポート

## 管理対象システムに関するサマリー レポート

管理対象システムに関するサマリレポートは、以下の情報を提供します。:

- マシン名
- 健康状態(ステータス)
- IP アドレス
- オペレーティング システム バージョン / サービスパック
- ロケーション
- ファンクション
- アセット ナンバー / 価値 / インストール日 / オーナー
- 論理 CPU ナンバー、タイプ
- インストール済み物理、論理メモリー容量、使用済みメモリーバンク
- 論理ディスクの数と使用可能容量
- インストール済み RAID コントローラー
- インストール済みアプリケーション数

## 管理対象システムに関する詳細レポート

管理対象システムに関する詳細レポートは、上記サマリーレポートの全情報に加えて、さらに以下の情報が追加されます。:

- マシンモデル / 製造元
- ボードモデル / 製造元
- 発見されたセンサーデバイス
- ディスプレイ アダプター モデル/メモリー
- モニター名 / シリアルナンバー
- インストール済みメモリー容量合計
- 個々のメモリーバンクラベルと容量
- 論理、物理メモリー容量合計と使用中メモリー
- 合計物理ディスク容量
- 物理ディスクサイズ / デバイス情報
- 個々の物理ディスクラベルと容量
- 論理ドライブ - ドライブレター - 使用可能容量、合計容量
- RAID コントローラー モデル/ ステータス/ RAID レベル/ 容量/ # ドライブ
- リムーバブル デバイス名 / 説明
- ネットワーク アダプター番号 / 説明 / DHCP / IP アドレス / MAC アドレス
- PCI スロット ラベルとステータス
- インストール済みアプリケーション - 名前 / ベンダー / バージョン

レポート - Microsoft Internet Explorer	
ウインドウを開く	
OS名	INTEL-DG6650T (システムステータス: Normal)
IP アドレス	10.10.200.59
オペレーティング システム	Microsoft Windows XP Professional
OS バージョン	5.1.2600
OS サービス パック	Service Pack 2
ロケーション	
アセット番号	
アセット価格	0
インストール日	
オーナー	
マシンモデル	DG6650T
製造元	INTEL
論理CPU数	1
プロセッサモデル	Intel(R) Celeron(R) CPU 2.66GHz
使用されているメモリバンク数	1
物理メモリ	512 MB
論理メモリ	2.00 GB
使用可能ディスク容量 合計	16.49 GB
インストール済 アプリケーション	4

レポート - Microsoft Internet Explorer		
ウインドウを開く		
OS名	INTEL-DG6650T (システムステータス: Normal)	
IP アドレス	10.10.200.59	
オペレーティング システム	Microsoft Windows XP Professional	
OS バージョン	5.1.2600	
OS サービス パック	Service Pack 2	
ロケーション		
アセット番号		
アセット価格	0	
インストール日		
オーナー		
マシンモデル	DG6650T	
製造元	INTEL	
ボード	1	
論理CPU数	1	
プロセッサモデル	Intel(R) Celeron(R) CPU 2.66GHz	
モデル	DG6650T	
製造元	Intel Corporation	
ゼンサー デバイス	ICH8/AFSC	
ディスプレイアダプタ	メモリ	
モデル	0	
モニタ名	モニタシリアル	
メモリ		
ロケーション	サイズ	ラベル
JEK1	512 MB	CHAN A DIMM 0 (#277079553)
合計	512 MB	使用
物理メモリ	2.00 GB	242 MB
論理メモリ		45 MB
物理ディスク	トータル サイズ	デバイス情報
デバイス ID	37.27 GB	ST340211AS 06FS0307D
合計	37.27 GB	
論理ディスク	空容量	トータル サイズ
名前	16.49 GB	19.93 GB
C:	16.49 GB	19.93 GB
合計	16.49 GB	19.93 GB
仮想ドライブ		

Figure 35: サマリ、詳細レポート

## Chapter 8: システム構成とセントラル アラート

System Area Manager ソフトウェアは警告の通知先、通知方法の設定を、個々のシステムへ設定する場合と、複数マシンに関して一括で集中して設定する場合の両方をご提供します。

*System Area Manager*は、各システム毎にモニターされた警告内容を一元管理できます。そして、*SNMP*トラップ、または、オペレーティング システム イベントログ経由の新しい通知方法が可能になります。

※ セントラル マネージメント マトリクスは、通常、複数のマシンを管理している場合、複数のマシンに共通の警告レベル(内容)を設定する場合に使用します。

## システム アラート マトリクス – システム レベル アラート(警告)

システム アラート マトリクスは、具体的な管理対象システムの、モニターされるコンポーネント全てのステータスをヘルスカラーを使用した形でご提供します。

マトリクス内の設定値、データ取得ピリオド、通知方法の設定等のセッティングは、デフォルトでシステム内で発見された全てのセンサーの実例を元に自動的に作成されます。したがって、特別な理由が無い場合は、そのまま変更しないで使用されることをご推奨します。

**システム アラート マトリクス**

物理 センサー 説明	下限		上限		警告時送信							危険時送信							
	危険	警告	現在	警告	危険	警告無し	Email	SMS /Pager	SMC	Network Message	SNMP Trap	System Event Log	Email	SMS /Pager	SMC	Network Message	SNMP Trap	System Event Log	
ファン(RPM)						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
温度(°C)						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電圧(V)						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
物理センサをリストア																			

論理センサー 説明	現在	設定値	アラート							インターバル(ピリオド)	
			警告無し	Email	SMS /Pager	SMC	Network Message	SNMP Trap	System Event Log	サンプル	リセット
ネットワーク アダプター			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
物理ディスク			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
論理ディスク		90	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8 Hr	168 Hr
CPU 使用率(%)		90	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4 Min	15 Min
メモリー 使用率(%)		90	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4 Min	15 Min

**通知設定**

Email アドレス:

SMS/ページャ アドレス:

マシン名:






SMC システム:

ユーザ名:








Figure 36: システム アラート マトリクス

## モニターされるセンサータイプ

### 物理センサー

	セキュリティー - システムのシャーシがオープンされ、新しいボード等が接続された場合、これがトリガーとなって警告、レポートされます。
	ファン - ファンが、BIOS でサポートされていれば、ファンの回転速度をモニターします。
	ボルテージ(電圧) - 接続されたボード等が機能するためにボルテージをモニターします。
	温度 - 接続されたボード等が機能するために温度をモニターします。
	過剰なパワーロス - IPMI で管理されたサーバーをモニターし、過剰なパワーロスが発生した場合、警告します。

### 論理センサー

	ネットワークアダプター - ネットワーク ステータスをモニターします。
	物理ディスク - システム内の全物理ディスクの実態と使用率をモニターします。そして、RAID コントローラーからオペレーティング システムへ、RAID セットもモニターできます。
	論理ディスク - フォーマットされた論理ディスクの使用率と、オペレーティング システムにマウントされている内容がレポートされます。もし、ディスクがフォーマットされていない場合、ディスクのエラーとして警告されます。  リムーバブル デバイス - リムーバブルディスクは、システムにマウントされている状態の場合レポートされます。
	管理対象 RAID コントローラー - RAID コントローラー 健康状況
	合計 CPU 使用率 - CPU の使用率パーセンテージ
	合計メモリー使用率 - 物理/論路メモリーの使用率パーセンテージ
	メモリー エラー レート - 発生したシングル/マルチ ビット エラー数 (ECC メモリー、サーバーボードによるサポートが必要です。)

### 通知セッティング

システムが System Area Manager ソフトウェアで管理されてる時、ユーザーは、設定値、各種ピリオド、通知方法等、いかなる項目でも変更することができます。また、警告の送信方法も SMS/ページャーへ、ネットワークメッセージへ、System Area Manager マネジャーへ、SNMP トラップへ、または、イベントをシステム イベント ログへ書き込み等 (Note イベントは、ローカルの Windows イベントログ、または、Linux syslog へ書き込まれます。) の通知方法も選択することができます。これは個々のセンサーカテゴリの通知方法から適当な内容を選んでチェックボックスにより選択します。センサーの内容をそれぞれ個別に選択するには、ポールドで記載されたセンサー カテゴリのヘッダーをクリックし、詳細の個別センサーを表示させて下さい。そして個別に表示された列の内容から、適当なチェックボックスを選択して下さい。

物理 センサー 説明	下限		上限		警告時送信													
	危険	警告	現在	警告	危険	警告無し			警告時送信							危険		
						No Monitoring	Email	SMS /Pager	SMC	Network Message	SNMP Trap	System Event Log	Email	SMS /Pager	SMC			
▶ ファン(RPM)						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
▼ 温度(°C)						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
Processor Temp	<input type="text" value="-10"/>	<input type="text" value="0"/>	36.0°	<input type="text" value="72"/>	<input type="text" value="74"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
Motherboard Temp	<input type="text" value="-10"/>	<input type="text" value="0"/>	40.0°	<input type="text" value="65"/>	<input type="text" value="70"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
Motherboard Temp	<input type="text" value="-10"/>	<input type="text" value="0"/>	44.0°	<input type="text" value="65"/>	<input type="text" value="70"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
Motherboard Temp	<input type="text" value="-10"/>	<input type="text" value="0"/>	39.0°	<input type="text" value="65"/>	<input type="text" value="70"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
I/O Controller Hub Temp	<input type="text" value="-10"/>	<input type="text" value="0"/>	63.0°	<input type="text" value="105"/>	<input type="text" value="110"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
Memory Controller Hub Temp	<input type="text" value="-10"/>	<input type="text" value="0"/>	46.0°	<input type="text" value="100"/>	<input type="text" value="105"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			
▶ 電圧(V)						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			

Figure 37: セッティング カテゴリ 通知のレベル

各センサー カテゴリは、センサーにセットされている、デフォルトの通知オプションを用意しています。カテゴリ内の設定値、データを収集する期間(サンプル パリオド)、収集をリセットする期間(リセット パリオド)等の内容は、自動的にセンサーが発見されて時点で適当な値がセットされます。

## 物理センサーの上限と下限の設定値

各物理センサーは、警告と危険の設定値に上限と下限の値を持っています。これらの値は、System Area Managerによってセンサーが発見された時点でハードウェアプラットフォームからこの情報をセットするか、または取得したデータから計算されセットされます。(したがって、設定された内容は特別な意図が無い限り変更する必要ありません。)

## 物理センサーの警告と危険の通知

物理センサーは、警告と危険の健康状態を別々に通知します。したがって、それぞれ別々な通知方法を設定できます。

## 論理センサー 設定値

物理センサーではない方法で、リソースをモニターする方法を論理センサーと呼びます。論理センサーには、論理ディスク、CPU 使用率、メモリー使用率等があります。

## 論理センサー 警告通知

論理センサーは、レベルの設定値が複数レベルのデザインになっていません。この警告通知の設定値は、シングルセットになっています。(上限と下限のような形式になっていません。)

## データの収集期間(サンプル パリオド)

CPUとメモリー使用率は、一時的な値だけが報告されないように、ある時間内から数回収集されます。この期間はアドミニストレーターによって設定可能で、サンプルパリオド(期間)と呼ばれます。

リムーバブルディスク(フロッピーまたは CD-ROM ドライブ)の論理ディスクの場合のサンプル期間も他のセンサーと同様です。サンプルパリオドの間に4回のセットでデータを収集します。そして、フロッピー、CD がすべてに存在した場合のみ警告の有無へ移行します。

## データをリセットする期間(リセット パリオド)

論理センサーが、警告ステータスへ移行すると、イベントを上げて、警告を警告セッティングに合わせで送信します。リセットパリオドは、初期の警告から追加の警告を発生させない時間の値です。

## システム アラート マトリクスからセンサー値を除去

特別な論理または物理ディスク等がシステムからリムーブ(除去)された場合、または、違った形の危険に陥った場合、それはレッド(赤)で表示され、横には“X”が表示されます。“X”をクリックすると、このセンサーの検査は、アラートマトリクスから削除されます。この危険の内容に意味が無い場合はこれを実行して下さい。アラートマトリクスが変更されると自動的に新しい健康状態がモニターされ表示されます。(表示が変更されない場合は、画面ヘッダー部のリフレッシュボタンをクリックして下さい。)

## 通知セッティング – Email による警告のコンフィグレーション

通知設定		例
Email アドレス	<input type="text"/>	admin@company.com
SMS/ページャアドレス	<input type="text"/>	
マシン名	<input type="text"/>	192.168.1.1
SMC システム	<input type="text" value="10.10.200.39"/>	192.168.1.1
ユーザ名	<input type="text"/>	ユーザ名
送信者 Email アドレス	<input type="text"/>	Local.Admin@company.com
送信者 Email パスワード	<input type="text"/>	
メールサーバー	<input type="text"/>	smtp.company.com
SNMP トラップ レジバ	<input type="text"/>	snmp.company.com

Figure 38: 通知情報の入力








通知する Email アドレス、送信元の Email アドレス、そして、メールサーバーのホスト名、または、IP アドレスを入力します。発信 Email の認証のため、発信元ユーザー名とパスワードを入力します。適用ボタンをクリックして下さい。テスト通知ボタンを選択すると、接続の確認のための、テスト用 Email が送信されます。

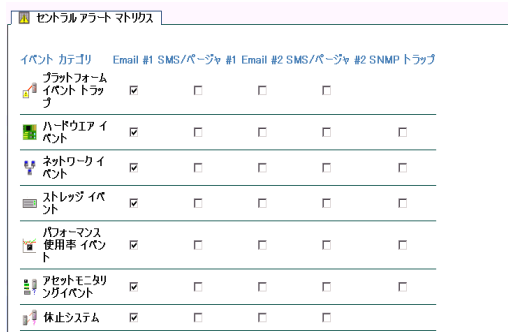
## セントラル アラート マトリクス

セントラル アラート マトリクスは、ヘッダーバー上のドロップダウンメニューからアクセスします。全ての管理対象システムからマネジャーへイベントが送信され、その内容にもとずき、本機能で設定された通知オプションのコンフィギュレーションに合わせて警告処理を実行します。

通知設定は、Email、SMS/ページャー経由等、アドミニストレーターにより構成されます。また、Email、SMS/ページャーは、それぞれ#1、#2、の2種類設定でき、合わせて、SNMPトラップへの送信指定もできます。

### モニターされるイベントタイプ

	PET (プラットフォーム イベント トラップ) - 受信された PET 1.0 フォーマット SNMP トラップは、プレーンテキストに変換され通知されます。
	ハードウェア イベント - システム内のコンポーネントが設定値を超過した時のハードウェア イベントには、物理シャーシセキュリティ、ファン スピード、シャーシ温度変動、ボルテージ (電圧) 変動、過剰なパワーロスが含まれます。
	ネットワーク イベント - アダプターが原因のネットワーク接続の損失。
	ストレージ イベント - 論理ディスクは、その使用の限界に達すると、論理、または物理ディスクは結果として失われることになります。(リムーブされるか、機能できなくなってしまいます。)また、リムーバブルディスクの場合は、システム上に接続され続け、危険な処理が実行されるかもしれません。
	パフォーマンス、使用率 イベント - CPU またはメモリー使用率が設定値を超過する現象です。
	アセット モニタリング イベント - System Area Manager ソフトウェアはモニターしたシステムのコンポーネントのインベントリを保存しています。(例: CPU、メモリー、ディスク、インストール、またはアンインストールされたソフトウェア アプリケーション、その他)そして、システムが起動時、保存された内容と現在のシステムのアセットを比較します。そしていかなる矛盾であっても、不一致が発生している場合、アセット モニタリング イベントとして報告されます。
	システム停止中イベント - System Area Manager ソフトウェアが管理対象システムと通信できなくなった場合、停止中 (シャットダウン中) としてレポートされます。



イベント カテゴリ	Email #1	SMS/ページャー #1	Email #2	SMS/ページャー #2	SNMP トラップ
プラットフォーム イベント トラップ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハードウェア イベント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ネットワーク イベント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ストレージ イベント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パフォーマンス 使用率 イベント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アセット モニタリング イベント	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
停止システム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

← クリックして通知方法を選択します。

Figure 39: セントラル アラート マトリクス

## System Area Manager をエンタープライズ フレームワークヘインテグレーション

### システム エリア マネージメント(SyAM) MIB

管理対象システムからトラップが送られる前に、SyAM MIB がエンタープライズ フレームワーク サーバーにインストールされている必要があります。

詳しくは、エンタープライズ フレームワーク アプリケーションの 3<sup>rd</sup> party MIB のインストール方法をご確認下さい。

MIB ファイルは、以下にインストールされています。:

<System Area Manager がインストールされているディレクトリ>/system\_monitor/syam.mib.

### システム エリア ネットワーク(SyAM) を Microsoft オペレーション マネジャー(MOM)ヘインテグレーション

System Area Manager マネージメント エージェントよって Windows イベントが書き込まれる前に、”SyAM Maneger Pack for Microsoft Operations Manager” が MOM サーバー内にロードされている必要があります。また、MOM エージェントは、イベントを MOM サーバーへ転送するために各管理対象システム上で構成されなければなりません。

詳細は、MOM ドキュメント上のサードパーティ マネージメント パックを MOM サーバーへロードする方法、および、MOM エージェントの構成方法をご参照下さい。

MOM マネージメント オアックは、以下にインストールされています。:

<System Area Manager がインストールされているディレクトリ>/system\_monitor/syam.akm.

## Chapter 9: システム情報へのアクセス

本チャプターは、管理対象システムが各セクション/タブから詳細情報を入手する方法について記載されています。

## システム タブ

システム タブは、BIOS、ベンダー情報、オペレーティングシステム、ロケーション、マシン名、ファンクション、メモリとCPUの使用率、その他を含むシステムのコンフィギュレーションについての情報が表示されます。

アドミニストレーターは、スクリーンの上部右側に付加的な情報を追加入力することができます。マネージメント ボタンをクリックすることにより、システムのパワー マネージメント ポリシーが表示され遠隔地からでも内容を再構成することができます。

**システム詳細**

**システム情報**

マシン名: INTEL-DG9650T      アセット番号:   
 ユーザ: INTEL-DG9650T\nick      インストール日:   
 ドメイン/ワークグループ: WORKGROUP      アセット価格:  0  
 製造元: INTEL\_      オーナー:   
 マシンモデル: DG9650T\_      ロケーション:   
 オペレーティングシステム: Microsoft Windows XP Professional      ファンクション:   
 OS バージョン: 5.1.2600      エージェントバージョン: V3.20.000-BL1571-3102-2273-Open (C)  
 OS サービス パック: Service Pack 2     

**ボード**      **BIOS**

製造元: Intel Corporation      製造元: Intel Corp.  
 モデル: DG9650T      レビジョン: Default System BIOS  
 シリアルナンバー: BQ0T63000035      リリース日付: 20060716000000.000000+000  
 センサー デバイス: IC18/AFSC      SMBIOS Rev: MQ96510J86A0816.2006.0716.2308

**CPU**

プロセッサ モデル: Intel(R) Celeron(R) CPU 2.66GHz      クロックスピード: 2664 Mhz  
 製造元: GenuineIntel      論理CPU数: 1  
 CPU 使用率合計: 2 %

**メモリー**

Figure 40: システム タブ

タイプ	合計	使用	未使用	使用率
物理メモリー	493 MB	243 MB	250 MB	49.29 %
論理メモリー	2047 MB	44 MB	2003 MB	2.15 %
ページファイル	1155 MB	164 MB	991 MB	14.2 %

メモリースロット: 4  
 最大サポートメモリー: 8192 MB

ロケーション	ラベル	データ長	フォーム	サイズ	タイプ	スピード (MHz)
J6H1	CHAN A DIMM 0 (E277879563)	64	DIMM	512	Synchronous	533

**スロット**

ID	ワイド	ステータス
PCIe x16 SLOT	0	使用可
PCIe x1 SLOT 1	0	使用可
PCIe x1 SLOT 2	0	使用可
PCIe x1 SLOT 3	0	使用可
PCI SLOT 4	0	使用可

**USB**

説明
Standard Universal PCI to USB Host Controller
Standard Universal PCI to USB Host Controller
Standard Enhanced PCI to USB Host Controller
Standard Universal PCI to USB Host Controller
Standard Universal PCI to USB Host Controller

**シリアルポート**

名前	Max. Baud
Communications Port (COM1)	115200

Figure 41: システムタブ 続き

## メモリーエラーのモニタリング

System Area Manager は、ECCメモリーエラーをサポートしているシステム上のシングル、および、マルチビットのモニタリングと警告をリアルタイムで提供します。

デフォルトの警告は、マルチビット エラーが発生した場合、即座にアドミニストレーターへ警告し、シングルビット エラーは、日に 2 度のエラーが発生した場合に警告します。

アドミニストレーターは、System Area Manager システム マネージメント インターフェースを通して、設定値の調整やインターバル ピリオドをシングル ビット、マルチ ビット双方に対する通知方法を修正することができます。

## パワー マネージメント タブ

パワー マネージメント タブは、ユーザーに、パワー マネージメント ポリシー を表示、再構成する機能を提供します。

パワー マネージメント : INTEL-DQ9650T (10.10.200.39)

パワー マネージメント システム

パワー マネージメント 詳細

タイムアウト セットアップ

コンピュータの状態: AC メイン

モニタをオフ:

ハードディスクをオフ:

システム スタンバイ:

スケジュール セットアップ

スケジュール	無し	シャットダウン	リスタート	実行時間
Sunday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>
Monday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>
Tuesday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>
Wednesday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>
Thursday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>
Friday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>
Saturday	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="button" value="00:00"/>

Figure 42: パワー マネージメント タブ

### タイムアウト セットアップ

ここから管理対象システムのパワー スキーム設定を構成することができます。もしも管理対象システムがノート PC の場合、2つの分かれたセットアップがあります。1つ目は、AC アダプターが接続されている場合で、もうひとつは、バッテリー稼働している場合です。

オプションは、以下の通りです。;

モニターの電源 OFF

ハードディスクの電源 OFF

システム スタンバイ

Hibernate - システムが Hibernate をサポートしている場合に表示されます。

### バッテリー

本情報は、管理対象システムがノート PC の場合のみ表示されます。

現在の電源ソース - システムが AC 電源、またはバッテリーのどちらかで稼働しているかのステータス。

バッテリー チャージ - バッテリーを充電しているか否かのステータス。

バッテリー レベル - 現在のバッテリー状況のステータス。

バッテリー チャージ - バッテリーの残量をパーセンテージで表示。

### スケジュール セットアップ

いつでも、管理対象システムの、シャットダウン、再起動をスケジュールすることができます。

ラジオボタンを使用して、適切なアクションを適切な日に対して指定することができます。(アクション無し / シャットダウン / 再起動)そして、ドロップダウン リストから時間をセットします。

1 週間内で異なるアクションを異なる時間で設定することができます。

1 日以内に 1 アクションのみスケジュールできます。

内容を設定したら、適用ボタンをクリックして保存して下さい。

## ハードウェア タブ

システムのプラットフォーム上で発見されたセンサーの環境は、ハードウェア タブ内に表示されます。これには、ファン、温度、ボルテージ、過剰なパワーロス、そして物理セキュリティー等を含んでいます。センサーのタイプや数はシステムのプラットフォームとコンフィグレーションに関係します。

システム詳細 : INTEL-DQ9650T (10.10.200.39)

システム | **ハードウェア** | ネットワーク | ストレージ | ソフトウェア

### ハードウェア詳細

	現在の値	状態
<b>ファン (RPM)</b>		
Processor Fan	1083 RPM	正常
<b>温度 (° C)</b>		
Processor Temp	35.0° C (95.0° F)	正常
Motherboard Temp	39.0° C (102.2° F)	正常
Motherboard Temp	43.0° C (109.4° F)	正常
Motherboard Temp	39.0° C (102.2° F)	正常
I/O Controller Hub Temp	63.0° C (145.4° F)	正常
Memory Controller Hub Temp	46.0° C (114.8° F)	正常
<b>電圧 (V)</b>		
+12 Volts	12.015 v	正常
+5 Volts	5.164 v	正常
+3.3 Volts	3.316 v	正常
+1.5 Volts	1.253 v	正常
Processor Vccp	1.349 v	正常

Figure 43: ハードウェア タブ

## シャーシ イントルージョン のリセット

幾つかのハードウェア プラットフォームは、シャーシ イントルージョン センサーをサポートしています。シャーシを閉じてしまうと、このセンサーのステータスを自動的に通常の状況にリセットすることはできません。これらのシステムのために、シャーシ リセット ボタンは、センサーを通常の状態にリセットする機能を提供します。

## ネットワーク タブ

ネットワーク タブは、管理対象システムのネットワークへ接続されているアダプターの詳細情報を表示します。これは、アダプター、接続スピード、接続ステータス、IP アドレス、MAC アドレスの情報を含んでいます。さらに、送受信バイトのカウントと、最近の約 20 秒の間の、使用率を計算します。

システム | **ハードウェア** | **ネットワーク** | ストレージ | ソフトウェア

### ネットワーク詳細

ネットワーク アダプタ	Intel(R) 82566DC Gigabit Platform LAN Connect - Packet Scheduler Miniport #1
説明	Intel(R) 82566DC Gigabit Platform LAN Connect - Packet Scheduler Miniport
接続 ステータス	使用中
DHCP	No
IP アドレス	10.10.200.39
サブネット マスク	255.0.0.0
デフォルト ゲートウェイ	10.10.200.1
DNS	10.10.200.1
MAC アドレス	00-16-76-B0-AF-D9
アダプタ スピード	100 Mbps
受信 済バイト 数	600 b
送信 済バイト 数	0 b
送信 使用率	0 %
受信 使用率	0 %

Figure 44: ネットワーク タブ

## ストレージ タブ

ストレージ タブは、モニターしたシステムに関連した、物理、論理ディスク上の詳細情報を表示します。物理ディスク属性には、ベンダー情報、デバイス ID、SCSI ID、容量、使用可能容量、使用率に関する情報を含みます。

名前	タイプ	トータル サイズ	空き容量	使用済容量	使用率
(C:)	NTFS	1953 GB	1649 GB	304 GB	15%
(D:)		0 MB	0 MB	0 MB	0%

デバイス ID	デバイス情報	SCSI ID	バス	ポート	論理ユニット	サイズ
WWPHYSICALDRIVE0	ST340211AS (S5PS03C7D)	0	0	2	0	3727 GB

名前	説明
(Standard IDE ATA/ATAPI controllers)	Standard Dual Channel PCI IDE Controller
(Standard IDE ATA/ATAPI controllers)	Primary IDE Channel
(Standard IDE ATA/ATAPI controllers)	Secondary IDE Channel
(Standard IDE ATA/ATAPI controllers)	Standard Dual Channel PCI IDE Controller
(Standard IDE ATA/ATAPI controllers)	Primary IDE Channel
(Standard IDE ATA/ATAPI controllers)	Secondary IDE Channel

名前	説明
HL-DT-ST CD-ROM GCR-8520B	HL-DT-ST CD-ROM GCR-8520B

Figure 45: ストレージ タブ

## RAID マネージメント

System Area Manager サーバー マネジャー は、PCI RAID コントローラーのモニタリングをインテグレートします。発見した全ての PCI RAID コントローラーをモニターすることができます。そして、コンフィグレーション サマリーと、ステータスは、ストレージ タブ内に表示されます。

System Area Manager サーバー マネジャーは、発見された RAID コントローラーに、ドライバーがインストールされていれば管理できます。もしも、System Area Manager サーバー マネジャーがスタートされた後に、新しい RAID コントローラーがインストールされた場合、そのシステムを再起動して下さい。新しく管理する RAID コントローラーが発見され、管理できるようになります。

リリースノートに動作が確認された RAID コントローラーのリストが掲載されています。ご参照下さい。

## SMART によるドライブの事前故障予測

直接接続されたディスク ドライブは、SMART 機能により毎日チェックされます。これは、P-ATA、S-ATA、SCSI、FC テクノロジーのディスクをサポートしています。アドミニストレーターは、管理するディスクが故障して、データを失う前に、警告の通知を受けることができます。SMART ステータスによって異常が認められたディスク(故障発生前)の通知は、通知オプションによって構成することができます。

ストレージ タブを選択すると、物理ドライブのステータスが表示されます。物理ドライブが警告ステータスの場合(故障前状態)は、アンバーカラー(琥珀色)で表示、レポートされます。

## **RAID マネージメント**

管理対象の PCI RAID コントローラーは、ストレージ タブからナビゲーションが開始されます。

< RAID コントローラーの上をクリックすると、RAID コントローラー ウィンドウが表示されます。 >

## RAID コントローラー スクリーン

RAID コントローラーに関するスクリーンは 4 つに分割されています。

**RAID コントローラー詳細** - コントローラーモデル、ファームウェアバージョン、キャッシュ(サポートされている場合)、バスナンバー、ID、BIOSバージョン、BBU Presence、Max Devices / Buses を表示します。

**RAID セット詳細** - 現在、コントローラーに構成されている RAID セットを表示します。これには、RAID SET#、ステータス (Normal, Init, Rebuild, Degraded, Failed)、の情報が含まれます。RAID Set (RAID Array とも呼ばれます。)は、物理ディスクとしてオペレーティング システムから認識されません。

**物理ドライブ** - RAID コントローラーに接続されている物理ドライブを表示します。これには、BUS 上のロケーション、ID、ステータス、容量、ベンダー/モデルの情報が含まれています。RAID コントローラーによって使用されるドライブは、通常、オペレーティング システムには見えません。

**使用可能アレイ** - RAID コントローラーによって定義された物理アレイを表示します。

物理アレイは、RAID セットによって作られるドライブのグループです。これは、RAID レベルと作成する追加の RAID セットの容量の情報を表示します。

## RAID セット作成 ステップ

1. 初めに、既存のアレイド RAID セットを作成するか、RAID セットを新しい物理アレイド作成するかを決めて下さい。もし、既存のアレイド作成する場合は、ステップ 4 へ進んで下さい。
2. 物理アレイド作成する場合は、アレイド作成したい適当な物理ドライブを選択するためにチェックボックスをクリックして下さい。(他のアレイド内の使用されていない物理ドライブ、または、ホット スペアが使用可能です。)
3. アレイド作成 ボタンをクリックして下さい。 - スクリーンが更新されるまでお待ち下さい。
4. 作成したい RAID セットの物理アレイド上をクリックして下さい。(容量が不足している物理アレイドは、いかなる RAID セット コンフィグレーションにも表示されません。)
5. ドロップダウン ボックスから RAID レベルを選択します。RAID レベルは、接続される物理アレイド内のドライブのみをサポートします。選択された RAID レベルの使用可能最大容量は、計算されて表示されます。本 RAID セットのために使用される容量を入力します。
6. 次は、キャッシュ ポリシーを選択し、ドロップダウンリストからそのサイズを選択します。
7. RAID セット作成 ボタンをクリックして RAID セットを作成します。
8. システムは設定を処理して、RAID セットを作成します。もしもオペレーションにエラーが発生する場合は、スクリーンにエラーメッセージが表示されます。
9. これで新しい RAID セットが作成され、モニター上に現れます。
10. もし、ステップ 3 で物理アレイドを作成してから、RAID セットを作成しない決定をした場合、アレイドを削除して問題ありません。RAID セットが作成されている場合は、物理アレイドは削除できません。

## グローバル スペアの追加 / リムーブ(除去)

1. RAID セットのグローバル スペアにしたい物理ドライブを、チェックボックスをクリックすることにより選択し、グローバル スペア ボタンをクリックします。
2. グローバル スペアをリムーブするには、現在ホット スペアとして表示されているチェックボックスをクリックして、グローバル スペアのリムーブ ボタンをクリックします。

## RAID セットの削除

1. RAID セット詳細の RAID セットナンバーのラジオボタンをクリックして、RAID セット削除 ボタンをクリックします。同一の物理アレイド上に複数の RAID セットが存在する場合、最後の RAID セットのみにラジオボタンが表示され、削除のために選択されます。

## ソフトウェア タブ

ソフトウェア タブは、モニターされているシステムのプロセス、サービス、そしてインストール、実行されているアプリケーションの詳細情報を表示します。

## エンド プロセス - スタート/ストップ サービス

アドミニストレータは実行しているプロセスをストップすることができます。そして、管理対象システムのサービスを、物理的に設置されている場所に行くことなく、スタート、または、ストップすることができます。各サービスのスタートタイプと現在のステータスが表示されます。

### ソフトウェア詳細

#### インストール済 アプリケーション (4)

名前	ベンダ	バージョン
Intel(R) Management Engine Interface		
WinRAR archiver		
Intel(R) PRO Network Connections	Intel	
SyAM Server Monitor Central 3.20	SyAM Software	3.20.000.1571

#### プロセス (25)

イメージ名	ID	CPU	メモリ (K)
System Idle Process	0	95	28
System	4	0	240
smss.exe	628	0	388
csrss.exe	692	0	4132
winlogon.exe	728	0	5512

プロセス終了

#### サービス (83)

説明	スタートアップ タイプ	ステータス
Alerter	Disabled	Stopped
Application Layer Gateway Service	Manual	Running
Application Management	Manual	Running
Windows Audio	Auto	Running
Background Intelligent Transfer Service	Manual	Stopped

終了させる  
プロセスを  
選択

スタート/スト  
ップさせるサー  
ビスをクリック

Figure 46: ソフトウェア タブ

プロセスの終了には、プロセス名の左のラジオボタンをクリックし、プロセス終了ボタンをクリックします。

#### プロセス (25)

イメージ名	ID	CPU	メモリ (K)
<input checked="" type="radio"/> java.exe	3388	0	22280
<input type="radio"/> smaaagent.exe	2872	5	6888
<input type="radio"/> wmiprivse.exe	2228	0	8544
<input type="radio"/> logon.scr	1364	0	1664
<input type="radio"/> wpabaln.exe	3452	0	2848

プロセス終了

Figure 47: プロセスの終了

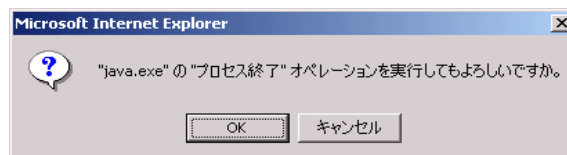


Figure 48: プロセス終了のい確認画面

サービスのスタートのために、サービス名の左のラジオボタンをクリックしてサービスを選択し、スタートボタンをクリックします。スタートさせるサービスはストップ状態であればなりません。

#### サービス (83)

説明	スタートアップ タイプ	ステータス
Application Management	Manual	Running
Windows Audio	Auto	Running
Background Intelligent Transfer Service	Manual	Stopped
Computer Browser	Auto	Running
<input checked="" type="radio"/> Indexing Service	Manual	Stopped
ClientServer	Disabled	Stopped

スタート

ストップ

Figure 49: サービスのスタート

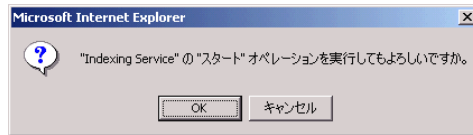


Figure 50: サービス スタートの確認画面

サービスのストップには、サービス名の左のラジオボタンをクリックし、ストップ ボタンをクリックします。ストップするサービスは、実行中でなければなりません。

## Chapter 10: プラットフォーム イベント トラップ サポート の構成

本チャプターは、実行されている *System Area Manager* が、プラットフォーム イベント トラップ (PET) を受け取るための方法を記載しています。

## プラットフォーム イベント トラップ

System Area Manager は、プラットフォーム イベント トラップフォーマット(PET) 内の SNMP アラートを受け取ることができます。

ベースボード マネージメント コントローラー(BMC)は、物理センサー イベント が発生した時、IPMI マネージメントによって、SNMP トラップを発行することができます。SNMP トラップは、標準 PET によってフォーマットされています。System Area Manager は、PET をキャプチャーして、セントラル アラートマトリクスでデザインした通知方法を選択し、アドミニストレーターに通知します。System Area Manager は、SNMP トラップのイベント情報をシンプルな記述へコンバートし、アドミニストレーターへのサーバーがイベントを送信したのか、また、そのイベントのタイプと重要度を識別して提供します。

さらに、サーバー マネジャー は、SNMP トラップ情報を、後で参照するために、イベントログへ完全な形で蓄積します。

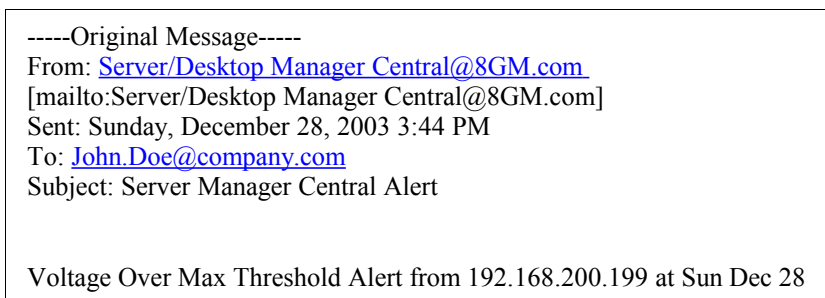


Figure 51: PET Email アラートのサンプル

Event Log	Date	Event Type	IP Address	Machine Name
914	Tue Jan 13 04:33:49 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
913	Tue Jan 13 04:33:48 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
911	Tue Jan 13 04:33:48 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
904	Tue Jan 13 04:33:47 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
902	Tue Jan 13 04:33:47 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
860	Tue Jan 13 04:33:46 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
836	Tue Jan 13 04:33:45 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
234	Tue Jan 13 04:32:33 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	
233	Tue Jan 13 04:32:33 EST 1970	Platform Event Traps	192.168.200.199	

Details

Server Reboot Alert from 192.168.200.199 at Tue Dec 23 11:38:47 EST 2003

Figure 52: イベントログ内の PET 情報

## サポートする PET のセンサー タイプ:

- 温度
- ボルテージ(電圧)
- 電流
- ファン
- 物理セキュリティ
- プラットフォーム セキュリティー
- プロセッサ
- パワー サプライ
- パワー ユニット
- クーリング デバイス
- メモリー
- ブート エラー
- OS の重要な停止

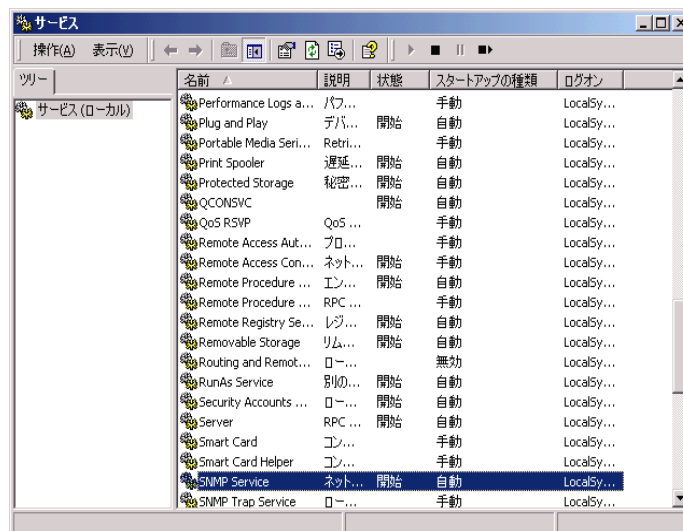
**Note:** PET が認識できない内容を受け取ると、それをアドミニストレーターへ通知します。そしてトラップの詳細は、イベントログ内へ蓄積されます。  
詳しい情報は、PET1.0 の仕様上に記載されています。DMTF の Web サイトをご参照下さい。

## System Area Manager がプラットフォーム イベント トラップを受け取るための コンフィグレーション

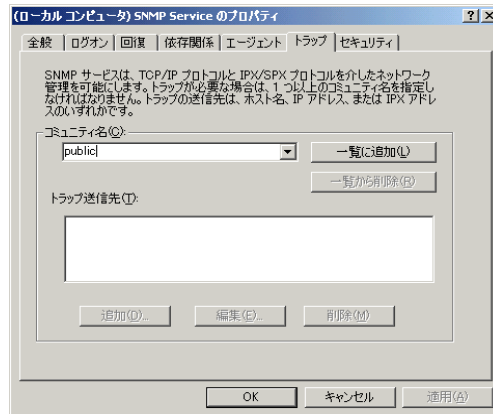
サーバー マネジャー が PET を受け取り、処理するために、システムは、SNMP サービス プロパティのコミュニティ名を”public”に変更し、Windows SNMP オプションによって自動的にインストールされる SNMP トラップが存在し、他の SNMP トラップ サービスが実行されていない必要があります。

SNMP サービス プロパティの構成方法:

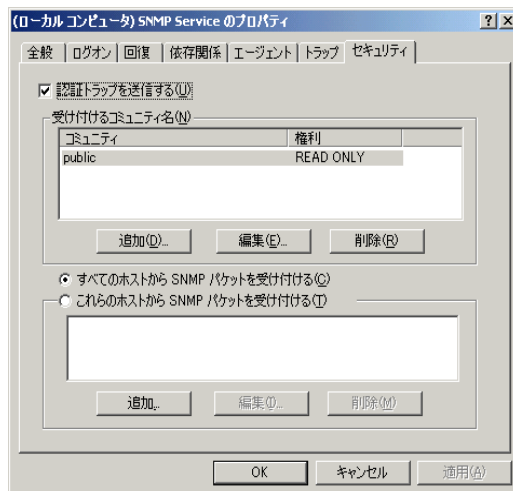
1. ”コンピュータの管理”をオープンします。(コントロールパネル→管理ツール)
2. ”サービスとアプリケーション”から”サービス”→”SNMP サービス”を選択します。



3. SNMP サービスのプロパティウインドウのトラップ タブをクリックし、コミュニティ名に”publib”を選択し、<適用>ボタンをクリックします。



- 次にセキュリティタブをクリックして、“すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける”のチェックボックスをクリックします。または、または、IPMI がサポートされたサーバー上の BMC のための IP アドレスを入力します。



- OK をクリックしてこのウィンドウを終了します。
- これらの変更を有効にするには、システムを再起動させる必要があります。

もし、SNMP サービスを発見できない時は、SNMP サービスがシステムにロードされていません。ロード方法は以降に記載されています。

SNMP サービスのロード:

- コントロールパネルから、“プログラムの追加と削除”を選択し、画面左の<Windows コンポーネントの追加と削除>を選択します。
- 画面を下へスクロールして“管理とモニターツール”をダブルクリックして下さい。
- “簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)”のチェックボックスをクリックし、<OK>ボタンをクリックします。<次へ>をクリックします。
- <次へ>をクリックすると、Windows SNMP コンポーネントのロードがスタートします。もし、システム内にファイルが見つからない場合は、Windows の CD が必要となる場合があります。
- インストールが完了したら、SNMP サービスの構成方法のインストラクションに従って下さい。

もし、他の SNMP サービスがすでに稼働している場合は、サーバー マネジャー PET トラップサービスはスタートできません。この内容の通知を受け取り、そして、イベントはイベントログ内に蓄積されます。

また、セントラル アラート マトリクスは、プラットフォーム イベント トラップ サービスを実行できないことを通知します。

## Chapter 11: コンタクトと用語等の解説

本チャプターはコンタクト情報(お問い合わせ先)と用語等の解説が記載されています。

## コンタクト情報

Web [www.nettool.co.jp/](http://www.nettool.co.jp/)  
サポート [inq@nettool.co.jp](mailto:inq@nettool.co.jp)  
電話/ファックス 050-6860-3401 / 050-6860-3888

## 用語等の解説

### アラートマトリクスにセンサーを追加

各センサーはデフォルトでそれぞれのセンサー カテゴリを持っており、自動的にモニターされます。

### アセット モニタリング イベント

システム内に、物理的/ソフトウェア インベントリに対する不一致、矛盾をモニターします。

### セントラル アラート マトリクス

アドミニストレーターは、全管理対象システムの通知設定を定義する際、このスクリーンを使用します。

### セントラル アラート通知 セットアップ

セントラル アラート マトリクスのための、通知とコンフィギュレーションの詳細。

### セントラル マネジメント ツリー

全管理対象システムをツリーフォーマットで表示します。

### セントラル マネジメント ツリー グループの変更

<グループ>のドロップダウンリストかた、ロケーション、ファンクション、オペレーティング システムのなかから適当な物を選択します。

### セントラル マネジメント ツリー、ソート順の変更

<ソート>のドロップダウンリストから、IP アドレス、または、マシン名のどちらかを選択します。

### レポートを受け取る、サーバー/デスクトップ マネジャー の変更

登録されているサーバー/デスクトップ マネジャー セントラル ツリーからシステムを一旦リムーブします。そしてそれから新しいサーバー/デスクトップ マネジャー セントラル ツリーへシステムを追加(管理対象システムの追加を使用)します。

### 危険レベル

システムが、ノーマル状況、警告状況を超過したレベル。

### 現在の値

システム内のセンサーを実際にモニターした数値。

### Email #1/ #2

アドミニストレーターのプライマリー(1番目)とセカンダリー(2番目)に設定する Email アドレス。

### イベントログ

全管理対象システムの蓄積されるイベント。

### 送信者アドレス

アドミニストレーターは、System Area Manager の警告のための送信者用 Email アドレスとユニークな名前を定義できます。

### 通常のシャットダウン

実行している管理対象システムを遠隔地からシャットダウンできます。

### システムのグルーピング

管理対象システムは、ロケーション、オペレーティング システム、ロケーションのいずれかで、グルーピングできます。

## ハードウェア詳細スクリーン

モニターされたシステム コンポーネントの情報で、ファン、温度、ボルテージ等があります。

## ハードウェア イベント

システムの物理コンポーネントが設定値に達した、または超過した場合に発生するイベント。

## ヘッダーバー

System Area Manager のブラウザー画面のヘッダーバーは、<ログアウト>、<リフレッシュ>、<?>(ヘルプ)機能を提供します。

## ヘルスカラー(健康状態の色)

グリーン = 全機能、健康  
アンバー = 警告値を超過  
レッド = 危険値を超過  
グレー = システムの更新待ち  
ブルー = エージェントが手動で停止された状態  
パープル = システムが応答しない状態  
ブラック = シャットダウンされたシステム  
シアン = ライセンスが満了しているシステム

## インターバル

全管理対象システムとコンポーネントは 20 秒のサイクルで参照されます。

## IPMI イベントログ

ハードウェア イベントログは、IPMI ベース サーバーへ蓄積されます。

## 論理センサー

ストレージ、ネットワーク アダプター、リムーバブル ディスク ドライブ、CPU/メモリー使用率。

## ログイン

アドミニストレーターは、アドミニストレーター権限(管理者権限)を持つログイン名とパスワードを使用して、System Area Manager ソフトウェアを実行するマシンへログインしなければなりません。

## 下限の設定値

モニターした値が、この設定値の値を下回った場合に警告します。

## ネットワーク詳細スクリーン

ネットワーク アダプターとそのコンフィグレーションに関する情報。

## ネットワーク イベント

ネットワーク接続が失われた場合等に行われます。

## 通知セッティング

Email、SMS/ページャー、System Area Manager-サーバー マネジャー、ネットワーク メッセージャー、SNMP トラップ等。

## パフォーマンス 使用率 イベント

CPU、またはメモリー 使用率のための設定値に達した、または超過した時のイベント。

## 物理センサー

物理セキュリティー、ファン、温度、ボルテージ、パワーユニット等。

## プラットフォーム イベント トラップ (PET)

IPMIをサポートするサーバーから、SNMP フォーマットのトラップを受信。

## リモート マネージメント

シャットダウン、再起動、Wake on LAN、リモートコンソール。

## リモート コンソール

リモート コンソールは、管理対象システムのローカルスクリーン、キーボード、マウスを システム マネジャー インターフェイスを通して取得、管理することができます。

## システム アラート マトリクスからセンサーのリムーブ(除去)

危険状態のセンサーのリムーブは、アラート マトリクスから“X” をクリックすることでリムーブします。

## マネジャー ツリーからシステムをリムーブ(除去)

マネージメント ツリーからシステムをリムーブするには、システムを選択し、“X” をクリックします。

## リセット ピリオド

初めに警告が送信されてから、センサーが変更されていなければ、その後も頻繁に通知を送信します。

## 物理センサーをリストア

このボタンをクリックすると、オリジナルで設定した設定値をリセットします。

## サンプル ピリオド

CPUとメモリーの使用率をサンプリングする際に使用されます。

## センサー ステータスがノーマル状態へ復帰

センサーが、実行時の、警告/危険状態から、ノーマル状態の範囲へ戻るケース。

## System Area Manager エージェント

System Area Manager マネジャーによってのみ動作(構成)され、これだけでは、まったく何も機能しない監視エージェント用プログラム。

## System Area Manager マネジャー

管理対象エージェントと共に動作して、モニターとその他コミュニケーション機能を提供します。

## System Area Manager ローカル

直接ローカルマシン上でブラウザから直接、または System Area Manager マネジャーから実行、管理します。

## System Area Manager ローカル ツリー

System Area Manager ローカルが実行されているシステムを、ローカル側で直接ブラウズするためのインターフェイス。

## SMS ページャー #1/#2

アドミニストレーター、プライマリ(1 番目)、セカンダリー(2 番目)の SMS/ページャー アドレス。

## SMTP アドレス

Mail システムのアドレス(送信サーバー): サンプル: mail.company.com または 192.168.1.100

## SNMP トラップ

システムまたは マネジャーからエンタープライズ フレームワーク サーバーへ通知 - ”System Area Management (SyAM) MIB”がエンタープライズ フレームワーク サーバーへインストールされている必要があります。

## Software 詳細スクリーン

プロセス、サービス、および、インストール済みのアプリケーションに関する情報。

## ストレージ詳細スクリーン

物理/論理 ディスク、コントローラー、リムーバブル デバイス上の情報。

## ストレージ イベント

論理ディスクの使用率が警告設定値へ到達、論理ディスクのロス、または物理ディスクのロスが発生した時のイベント。

### **停止中システム**

サーバー/デスクトップ マネジャー セントラが管理対象システムと通信できない状態。正確にシャットダウンしていない限り、停止中でレポートされます。

### **システム アラート マトリクス**

センサーの警告/危険用設定と通知オプションに関するインターフェース。

### **システム 警告通知セッティング**

システム アラート マトリクスのための通知とコンフィグレーション詳細。

### **システム詳細 スクリーン**

BIOS、オペレーティング システム、ロケーション、メモリー、CPU、等、システムのコンフィグレーションに関する情報。

### **上限の設定値**

モニターした値が、この設定値の値を上回った場合に警告します。

### **発信認証のためのユーザー名、パスワード**

アドミニストレーター ユーザー名とパスワードを入力します。(もし発信のための認証が必要な場合)

### **Wake on LAN**

管理対象システムがこれをサポートしている場合、遠隔地からのパワーオン機能を使用できます。

### **警告レベル**

ノーマルな状態から、警告状態、危険状態を定義する設定値のレベル。

### **Welcome**

製品のレビジョン情報、コンタクト情報が表示されます。